

折紙探偵団新聞

前号前々号は
増ページだった
のだよの23号

折紙博物誌

— 前川 淳 —

巻ノ四 陰陽道秘傳・紙ノ白鳥異説



紙の神



わたしの実家は東京の世田谷にある。四半世紀前になる少年時代には、周囲に小さな畑が点在していた。今では探しても畑は見つからず、空き地も大小の建物でふさがれた。マンションの類が多く、ひとの動きも早い。地域との結びつきが希薄なそんな東京の住宅地だが、いまでも氏神が生きつづけている。それを実感するのは、ポストに届けられた青色と朱色の、紙で作られた二枚の人形（ひとかた）を見るときだ。手のひらにのる程の大きさで、単純なかたちをしているそれは、毎年届けられ、一年の穢れをうつし、焼くなりして穢れを祓うために使う。しめ縄に下げられる紙垂（かみしで）、お盆のときの墓石の飾りつけ、流し雛。遊戯おりがみのルーツとされるそれらは、わたしたちをもうひとつの「おりがみ」の世界に誘う案内者でもある。

紙と神が同音であることは、おりがみ愛好家ならば一度は考える暗示的なテーマだが、林正巳氏の「和紙の里」（東京書籍）には、実際に紙の神があることが記されている。まずは福井県今立町の岡太（おかもと）神社だが、神社の縁起の伝える紙の始まりは、何と日本書紀の伝える紙の伝来よりも古い。由緒深さでひけをとらないのは、徳島県山川町の忌部（いんべ）神社に忌部氏の祖神として祀られる天日鷲命（あまのひわしのみこと）である。福島県白石市や山梨県市川大門町などの和紙の産地では、その仕事場に天日鷲命を祀った神棚があるという。西の市で有名な大鳥（鷲）神社もその流れをくんでいる。色合いが鳥の子、即ち卵に似ているからだと言われる上質な和紙のひとつ「鳥の子紙」の由来にも

浅からぬ関係があるらしい。阿波・讃岐などに力があつた古代の部民・忌部氏は、朝廷の祭祀にたずさわっていた氏族で、麻の布などをつくる職能集団でもあった。金達寿氏の「日本の中の朝鮮文化」（講談社文庫）などによると、彼らは渡来人である。大陸への表玄関であつた日本海に面する越前の岡太神社の祭神も、そのような渡来のもものとみることができるかもしれない。



陰陽道の紙の魔術



時代が動き、忌部氏は大伴・物部（もののべ）氏などとともに中臣氏（のちの藤原氏）に圧倒され、朝廷の中心から遠くなる。それから三百年のち、物部氏と深いつながりを持つ「安倍」の姓を持ち、一説に讃岐の出身と伝えられるひとりの男が歴史に登場する。男の素性は明らかではない。四国には、狸と狐の戦争で狐がやぶれ、以来四国には狐がいないという話が伝わる。その男の母が狐であるという伝承がある一方で、彼は、讃岐の出身ともいわれる。彼・安倍晴明（あべのせいめい）が歴史に名を残し、荒俣宏氏や夢枕漢氏にいたるまで、何度となく文学の題材となったのは、彼が超人的な術を使ったとされるからだ。古代中国に起源をもつ陰陽道（おんみょうどう）である。陰陽五行説（いんようごぎょうせつ）がいかにわたしたちの生活に浸透しているかは、大安吉日や十干十二支がそれを起源とすることからも知れるが、呪詛なども含む本格的（？）な陰陽道も連綿と現在に伝わっている。小松和彦氏の研究によって知られる、高知県物部（もののべ）村の「いざなぎ流」の儀式は目をみはるものだ。そこでは、紙でつ

くられたみてぐら（ささげもの）が重要な役割を果たす。陰陽道と関係の深い道教には、剪紙成兵術（せんしせいへいじゆつ）といって（剪の字があることからわかるように紙を切るわけだが）、紙でつくった人形を生きた兵のごとく操る術がある。道教の八仙のひとり張果老は、紙のように折り畳みのできるロバを持ち歩いていったという。

さて、希代の陰陽師・安倍晴明だが、「宇治拾遺物語」の記述によると、懐から出した紙を鳥のかたち（ひとかた）にひきむすんで白鷺とする術を使う。これをおりがみを記述した文献と見るかについては、探偵団新聞16号で岡村氏が疑問をよせている。確かに、この説話を収録した鎌倉時代の記述者の頭に「おりがみ」はなかったように読め、また、晴明を描いたものも含めて中世の絵巻の中に扇や幣はあるが、「おりがみ」らしいものは見あたらない。が、あえて大胆な、大胆過ぎて反論のしようのない推測を開陳しよう。陰陽道の他の術がそうであったように、この術も秘術であつたと考えれば、資料がないことも故なことではない。

陰陽五行説では、混沌を表す「太極」が陰と陽に分けられ、それがさらに陰と陽に分けられ「四象」に、もう一度分けられて「八卦」となる。ガマの油の口上にも似た、この2進法的分割は、正方形を折り畳み、それをさらに折り畳んでという、折鶴の工程に対応する。そして見よ。折鶴の基本形の展開図は、折紙原子論的にみれば、同様の折り線構造八つの組み合わせとなっている。八卦だ。晴明がつくつたのは折鶴!? 折鶴の霊力の起源はここにある!? ある天気晴朗な朝、全国各地、いや世界各地で折られた折鶴が、晴明の霊の復活とともに命を得て、京都・晴明神社に向かって飛び立っていく。なんてね。本気で信じちゃだめだよ。

（探偵団の入交さんという方の住所が忌部の里の徳島県麻植郡だったのでびっくり。忌部氏の末裔ですか?）

【人間主義的なお話し】

三大古典折紙資料と言われる『千羽鶴折形』と『折形手本忠臣蔵』と『かやら草』の折紙は、すべて桑名の魯縞庵義道の作であるという解説を初めて書いたのは本多功氏だったが、氏がそう考えた「論理」には、意外なヒューマニズムが隠されていたのであった。

その同一作者説の根拠は、『千羽鶴折形』の「蓬萊」や「竜胆車」などと『かやら草』の「蟹」とは発想が共通している、（正方形の用紙を4等分して4羽の鶴を折る）また、『折形手本忠臣蔵』は『かやら草』の「猿猴」などと共通の基礎折りを使用している、従って三書の折紙作者は同一人である、というのだ。きわめてラフな「三段論法」で、このような非論理が鵜呑みにされていた状況にはかねて慟嘆したものであるが、先日ふと考えてみると、この論には少なくとも「他人の創作をそのまま真似したり、作図をそのままコピーしたりするような盗作者は存在しない」という前提が隠されていたことに思い至り一種の感動を覚えたのである。本多氏は、江戸時代の出版社や作者たちに絶大な信頼を寄せ疑いもしなかったわけで、これをこそヒューマニズムと言わずに何と言おうかと思ったのである。

【非人間主義的なお話し】

一応、B社ということにしておこう。裁縫や手芸関係の本をかなり手広く出版している会社が折紙の本を三冊ばかり出しているのだが、その一冊を見て唖然とした。折紙関係者なら誰でもすぐにわかるような、有名な作品がいくつも載っていて作者名は書いていない。この本一冊目の著者は、某折紙会館で折紙講座を持っている人のご尊父だそうで、二冊目はその講師A女史著になっている。例えば図1はNOA『おりがみ』125号の松原千恵子さんの「寿」の折り図の一部で、図2は問題の本の「祝い鶴」の一部である。いやしくも協会の機関紙が権利を侵害されているのだから『おりがみ』誌上で事の経過を会員に報告すべきものと思う。松原さんの竹取物語からは、か

ぐや姫も翁も姫もそのままの姿で泣きながら載せられているのだ。竹取の翁は必ず斜め後ろ向きの姿勢で泣くものと決まっているわけでもなかろうに。

このような暴挙をごまかす論理にはどのような非人間的な思想が隠されているのだろうか。

おりがみ庵

ひとりごと
岡村昌夫

第11回

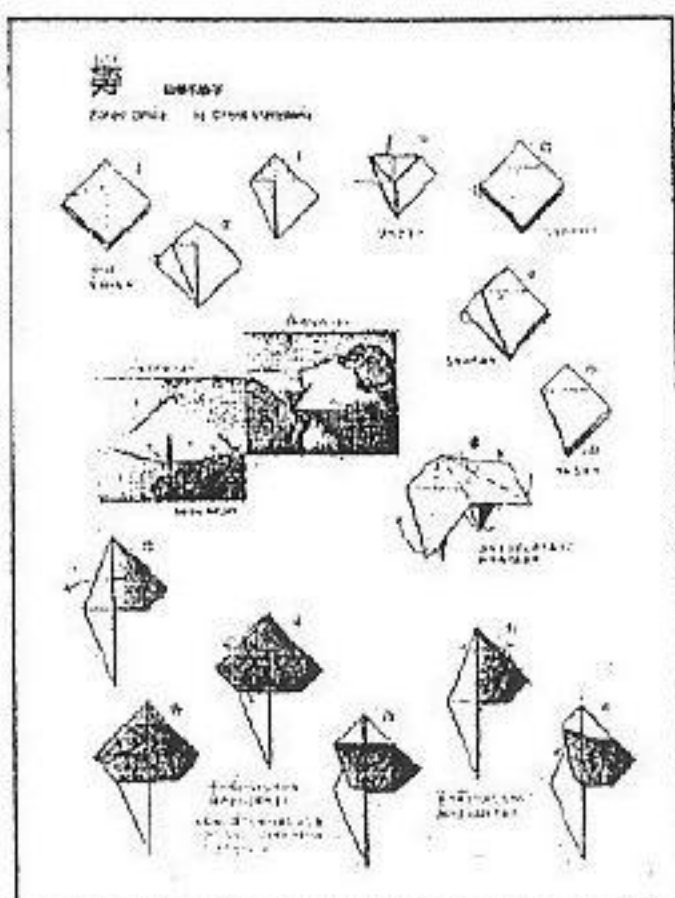


図1 雑誌『おりがみ』125号より

【千羽鶴もやられた】

実は、B社が最近出した『鶴を折る』の一部に『秘伝千羽鶴折形』から15種が紹介されていて、珍しく狂歌や「見立て」にまで解説が及んでいるので読んでみると、なんとすべて拙著（NOA刊『秘伝千羽鶴折形』解説）の要約をやっているではないか。今度は著者名が無くて、某染紙店社長の監修になっている。

誰が書いても同じになる部分もある。しかし独自の発想や表現が擬態語も含めて全体的に一致するはずはない。特に「見立て」の解釈は人によって変わるはずで、「昔男」の小鶴が業平を追いかける女性の見立てだろうというようなことをそのまま書く必要はないのだ。

『秘伝千羽鶴折形』の原図にはミスが多くて、普通は切り方図（または展開図）を改訂して完成図のように仕上げるようにしているわけだが、例外的に「瓜の蔓」のように完成図も切り方図も不可解なので問題になっているものもある。それについては笠原邦彦氏がかつて詳しく解説して幾つかの案を出されてもいる。B社の本の著者はそんなことを知らないらしくて、独自の案を出しておいた拙著をそのまま使っている。

もし、他人のものを無断で使用することが悪いことだという意識のある著者だったら、以上のようなことをするはずがない。同じであろうが何であろうが本にしてしまえばこっちのものというイージーで、悪意とでもいえるべき態度が露呈しているのではない。うしろめたさや罪悪感を持っているなら繰り返さないだろうが、確信犯のようで始末が悪い。いかに悪質であるかという事実を大勢の人に知っていただきたいと願うゆえんである。

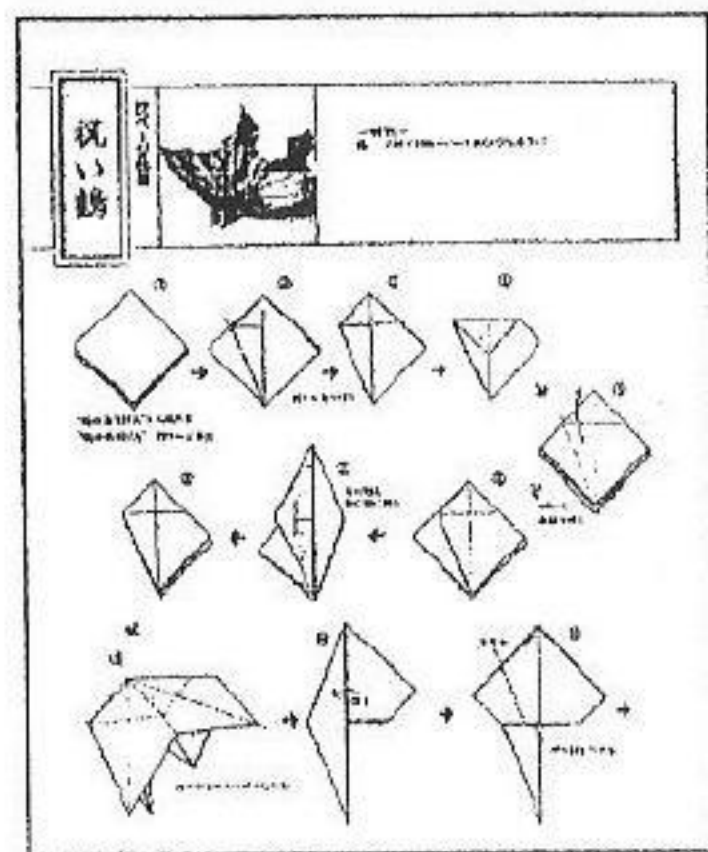


図2 ブティック社『折り紙人形』より

【悪徳出版社】

普通は、盗作事件が起きると、著者がやったことで編集部は気がつかなくて申し訳なかったということになるのであるが、B社はそうではなかった。同社取締役編集本部長という肩書のN氏からの返書の一部を紹介したい。今時こんなひどい出版社があるとはと、これを見た他の出版関係者たちは一様に驚いている。

以下次号 . . .

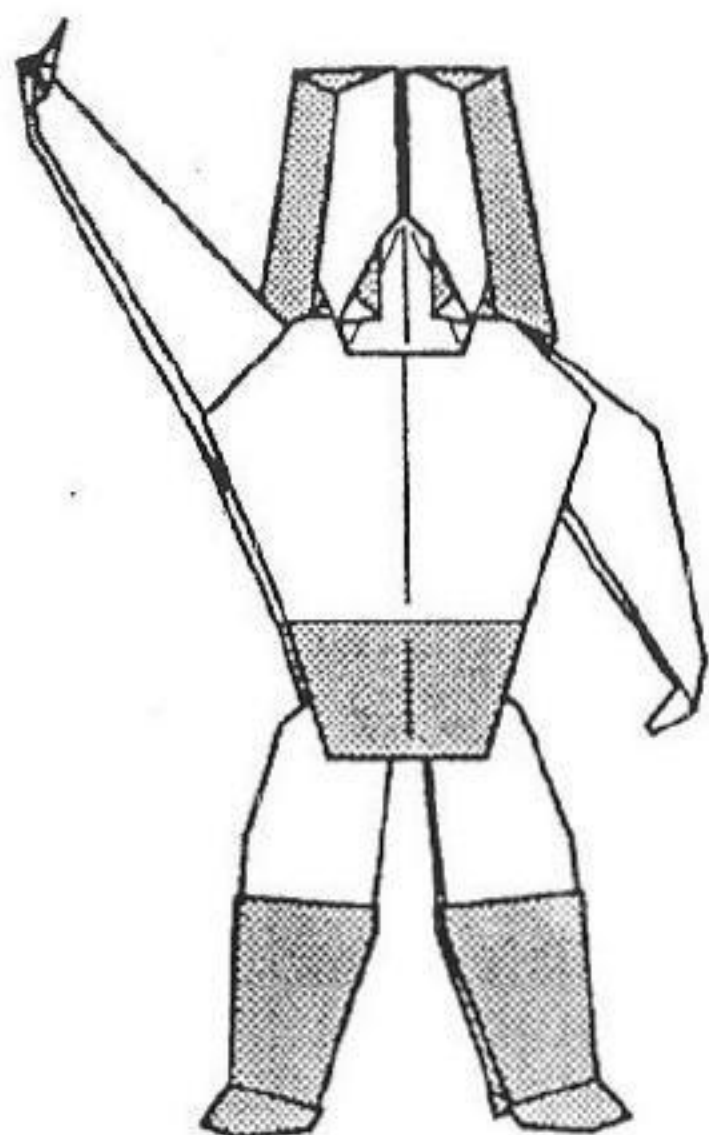
シェフ 料理長のお褒め品

今日の肉料理

ハルク・ホーガン

Hulk Hogan

Designed by
Yoshihisa Kimura



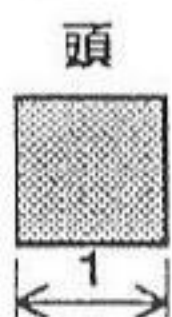
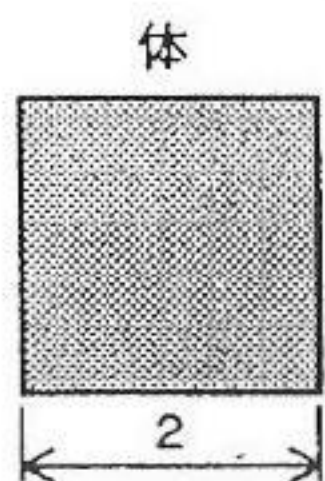
料理長御挨拶
木村良寿

プロレスラーのホーガンです。
映画「ロッキー3」のサンダー・
リップス役やエアコンのCMで
「ホソナガー！」とやっている人
と言ったほうがお判りかも知れま
せん。

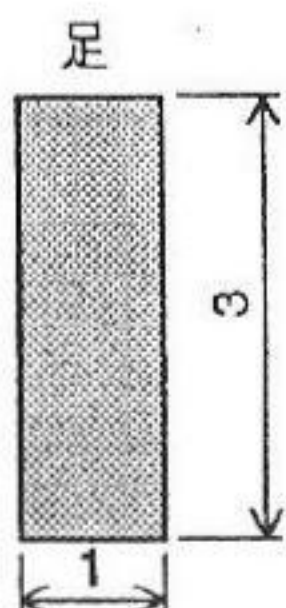
1980.10.12創作
Oct. 12th, 1980

頭の折り方

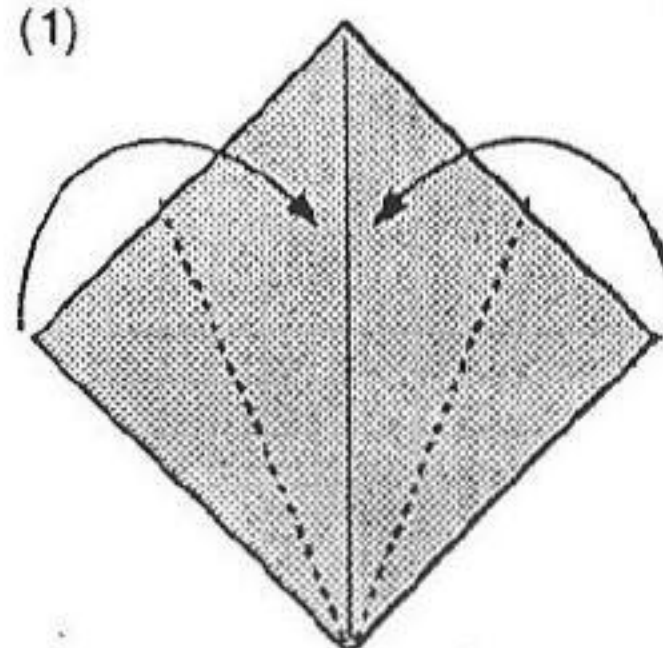
3枚の紙を使います



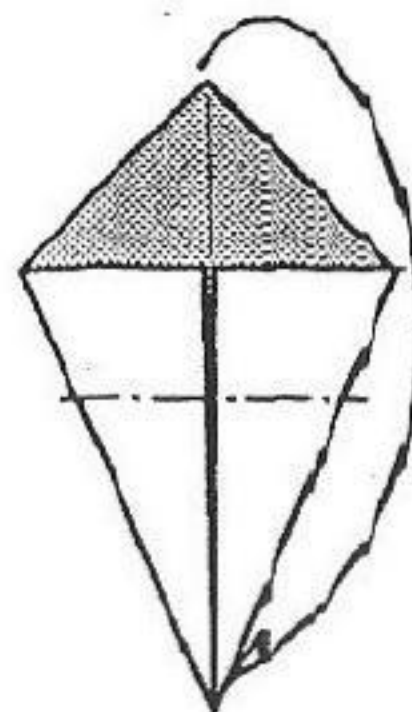
頭はもう少し
小さくても
よいでしょう



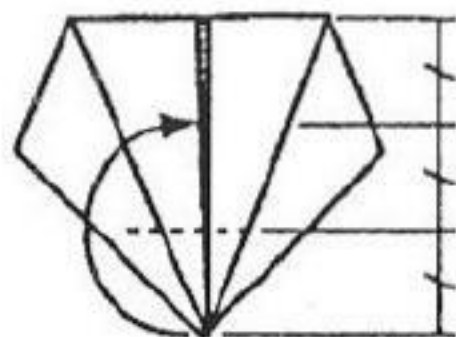
(1)



(2)

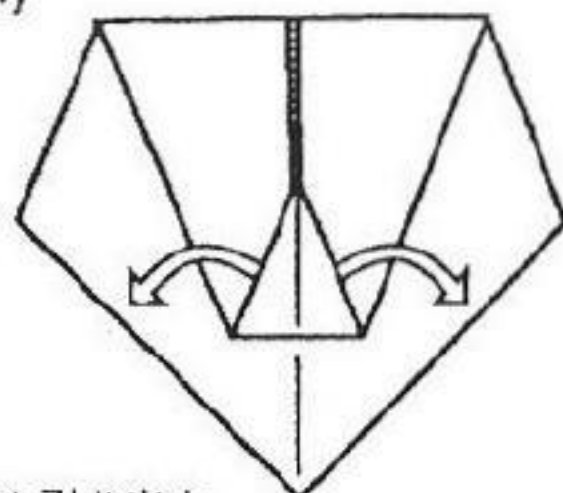


(3)



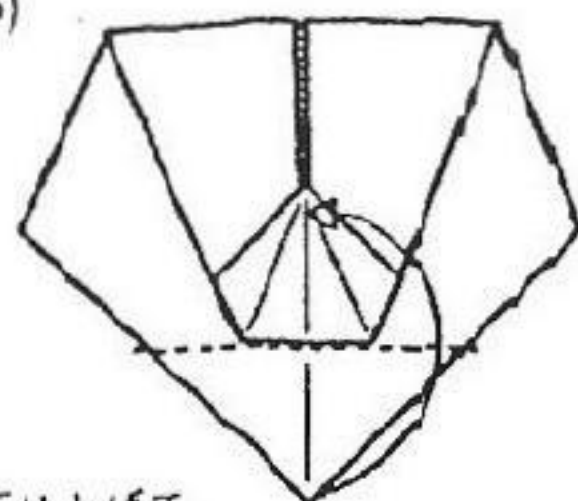
上の一枚だけ折る

(4)



内側の紙を引き出す

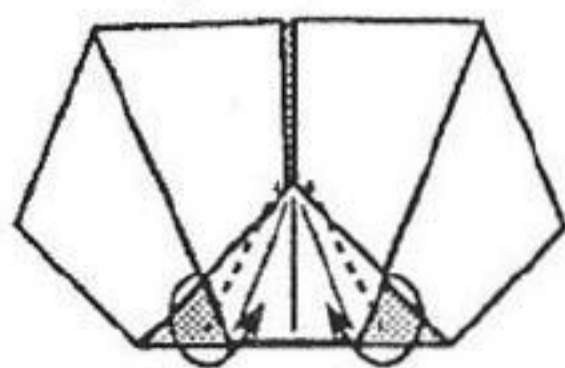
(5)



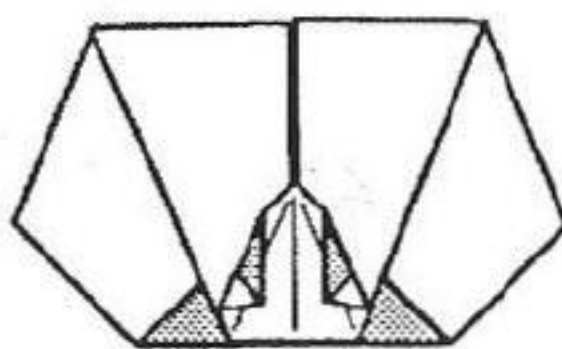
折り上げて
内側に入れる

(6)

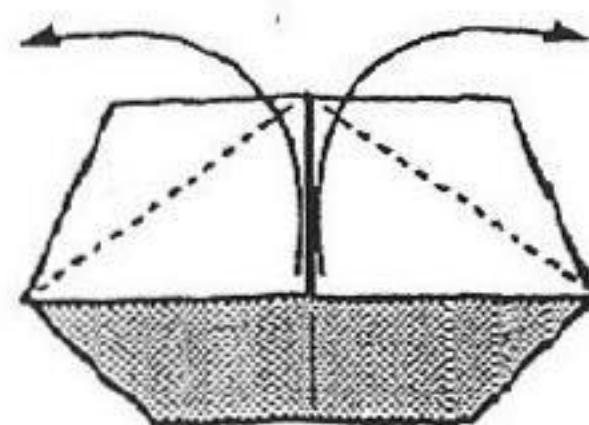
上の一枚だけ折る

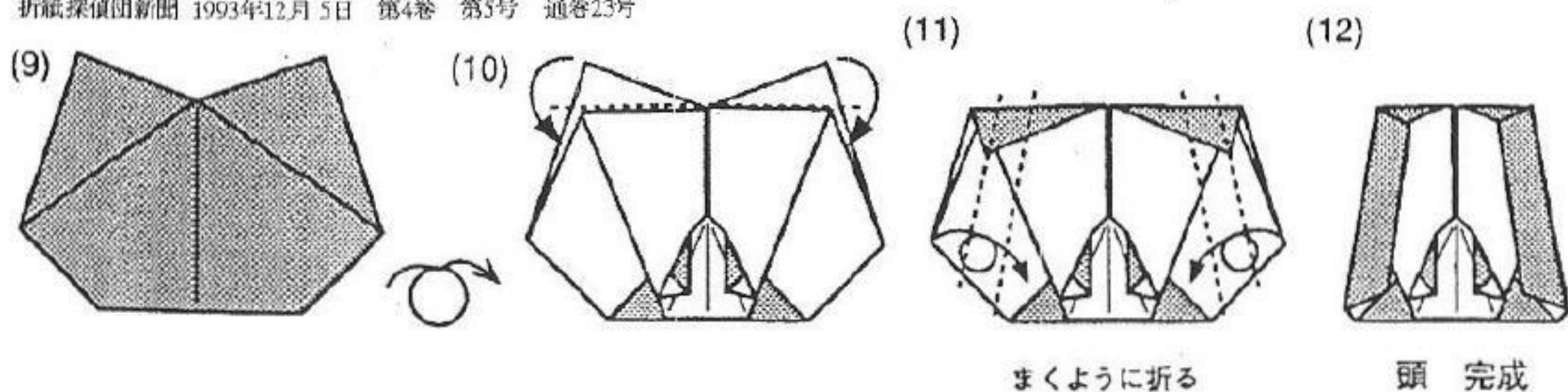


(7)

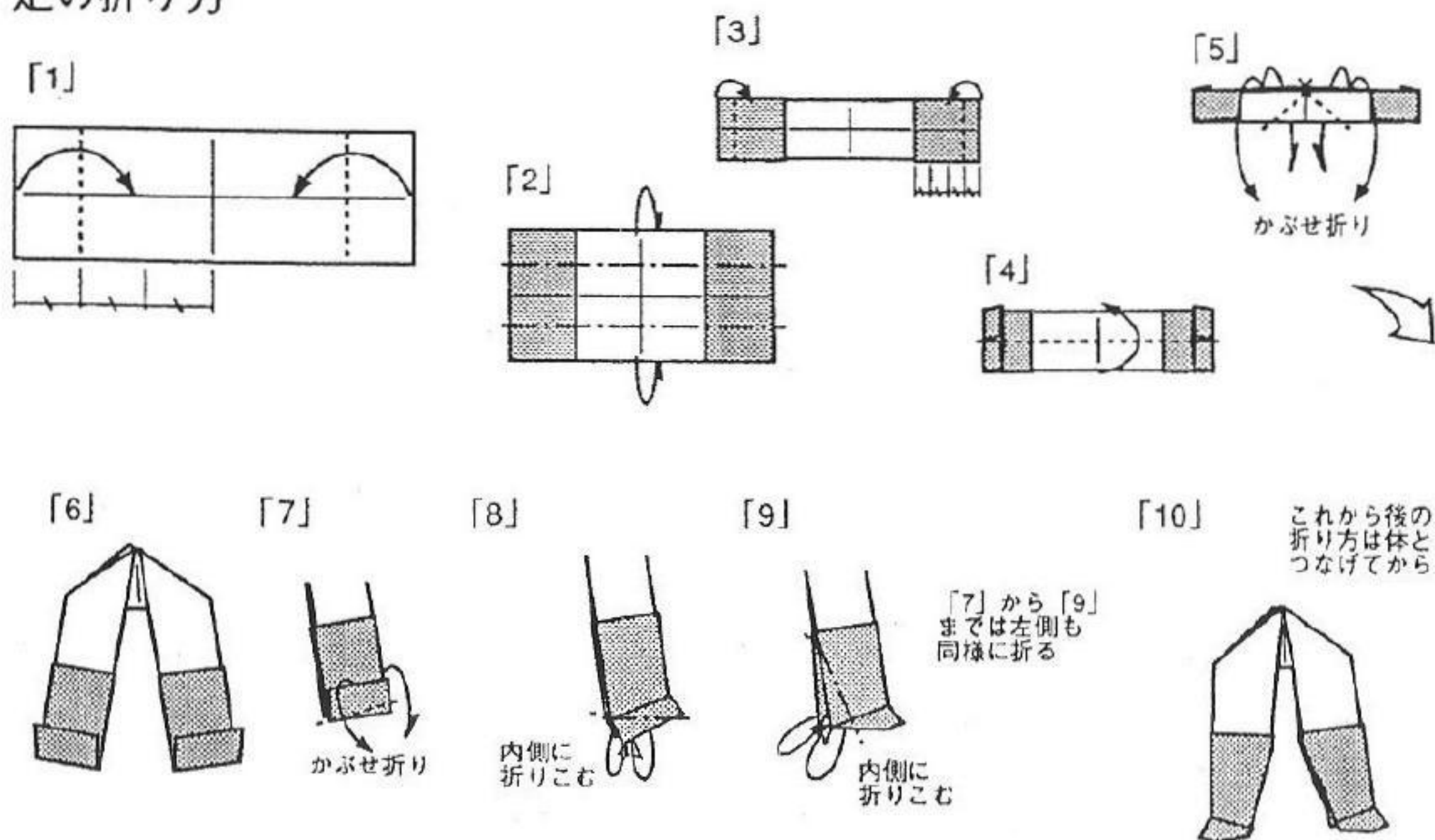


(8)

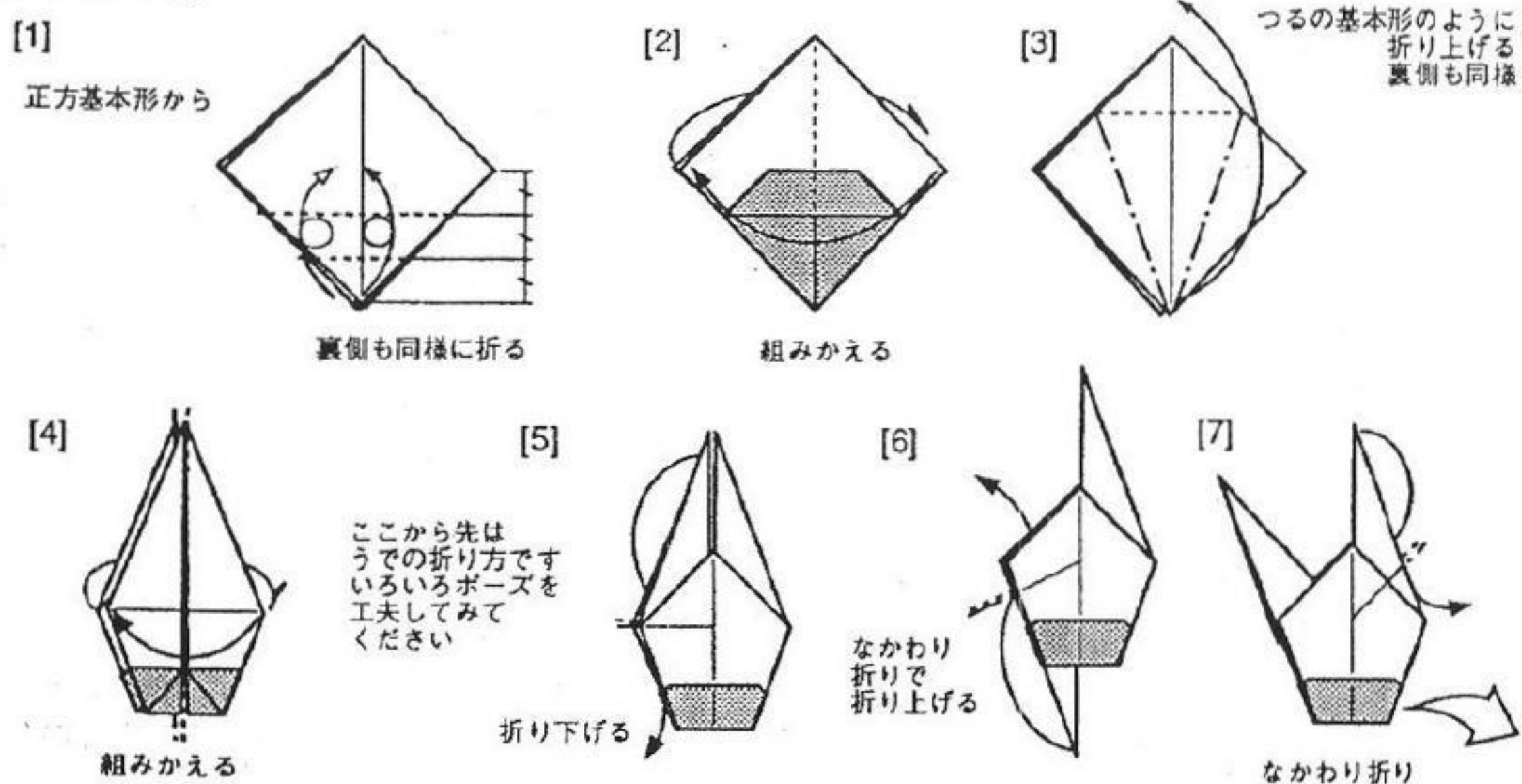


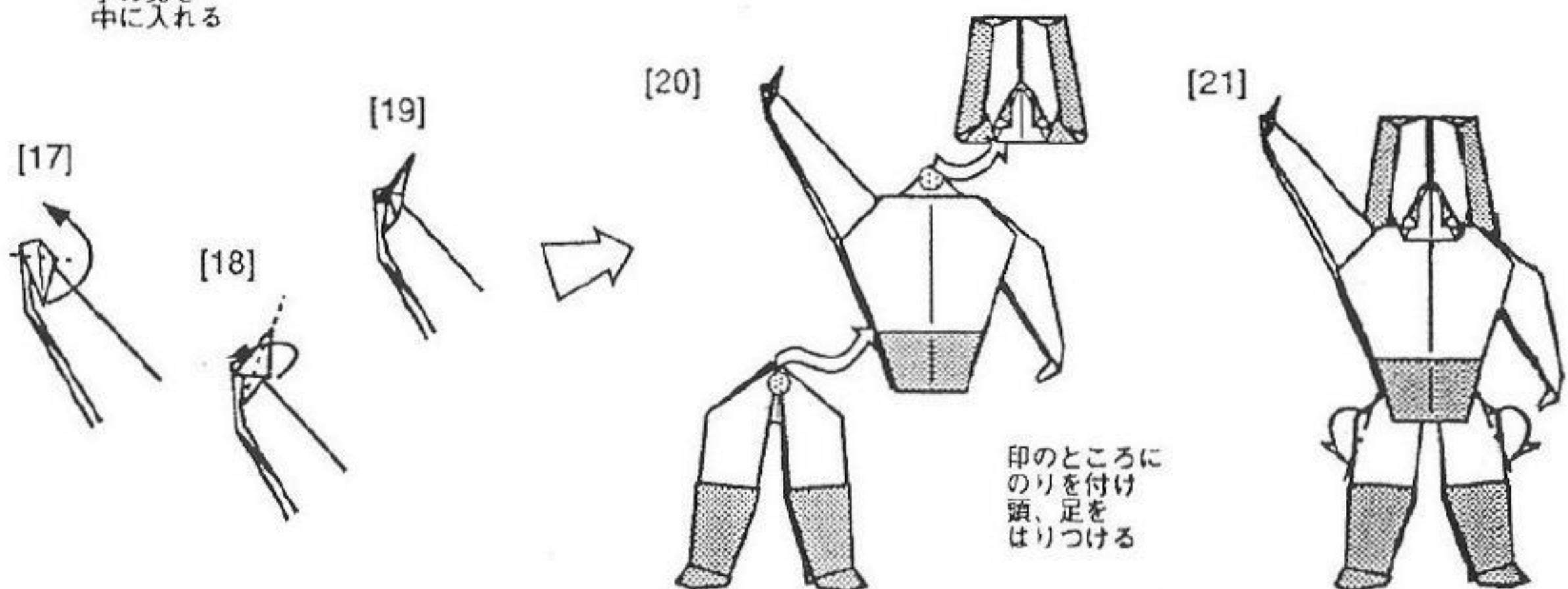
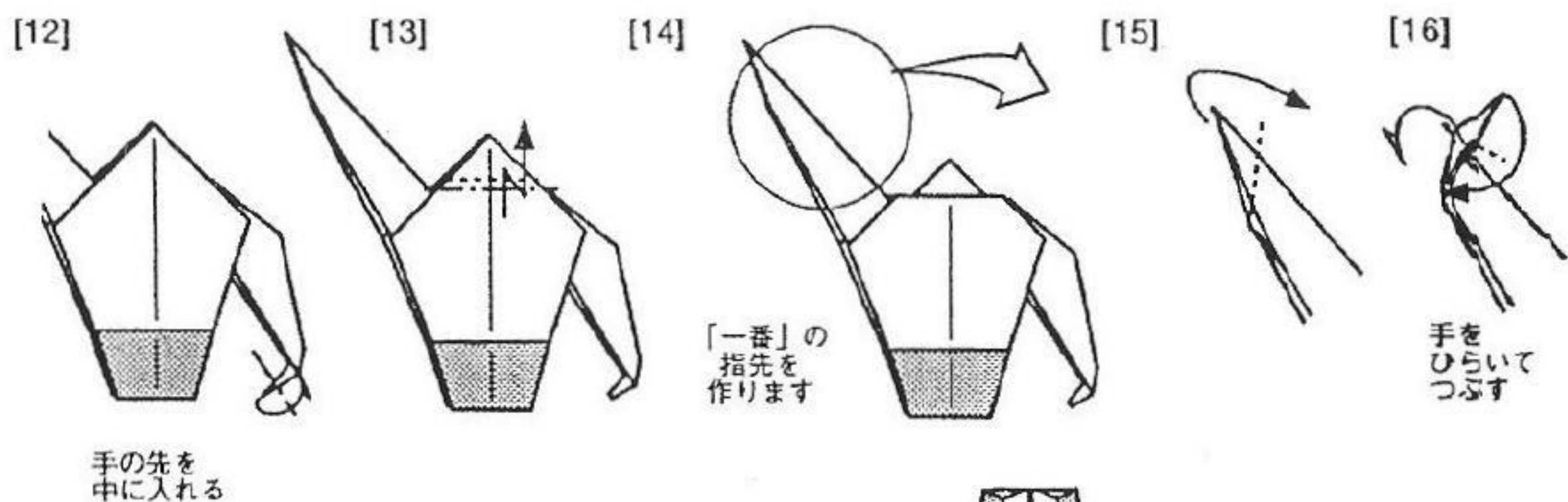
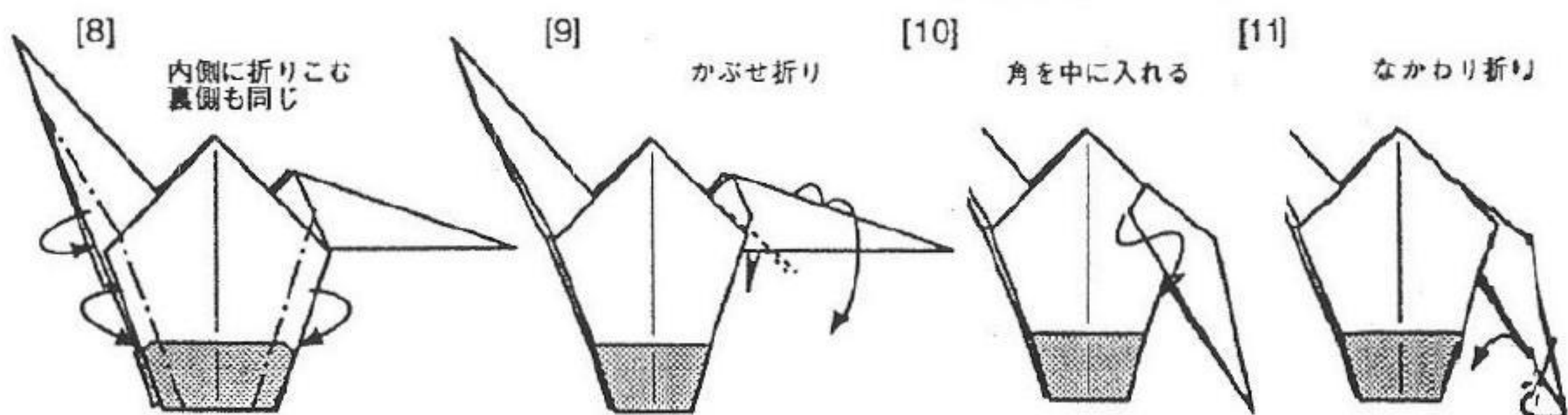


足の折り方

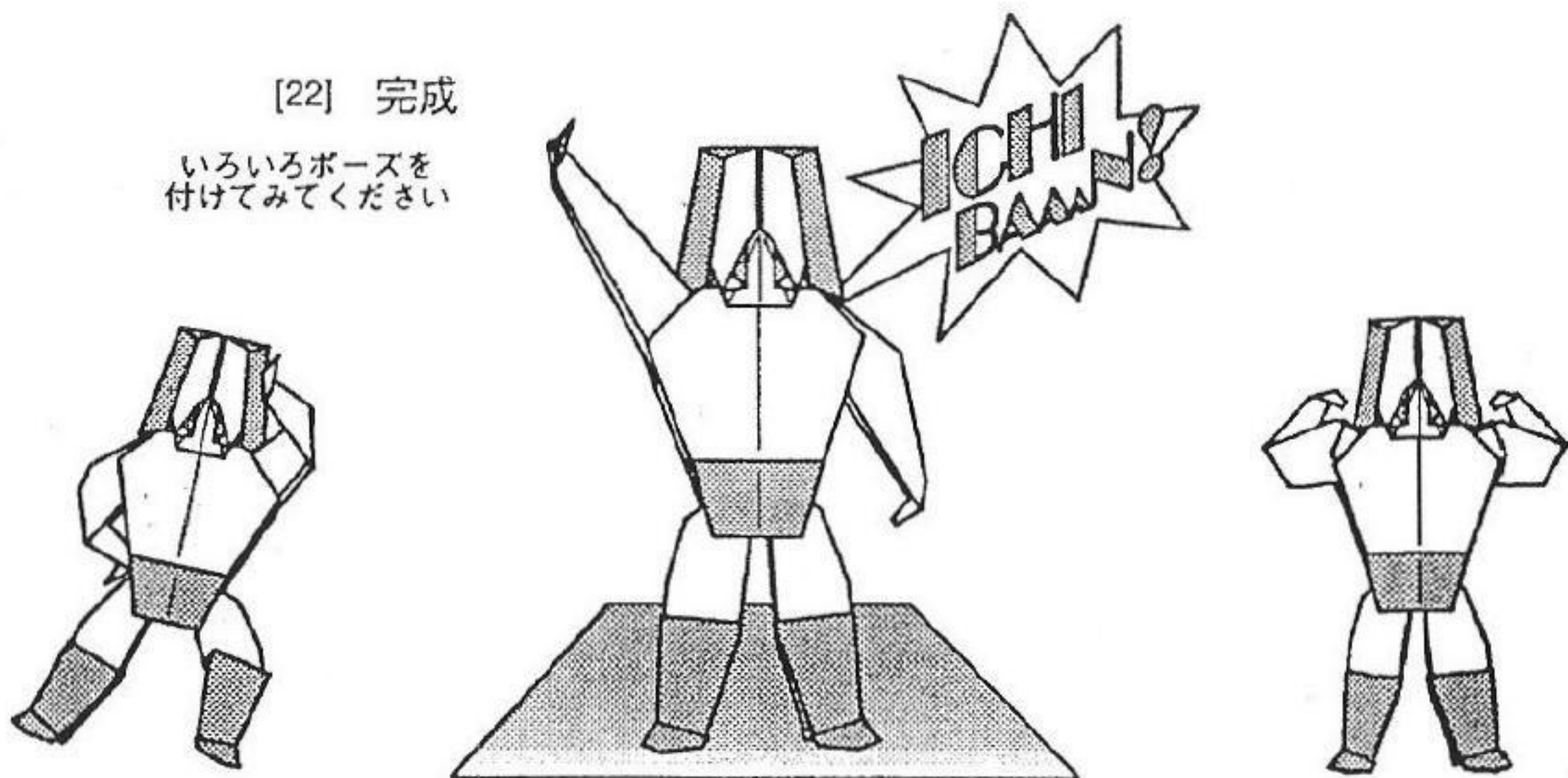


体の折り方



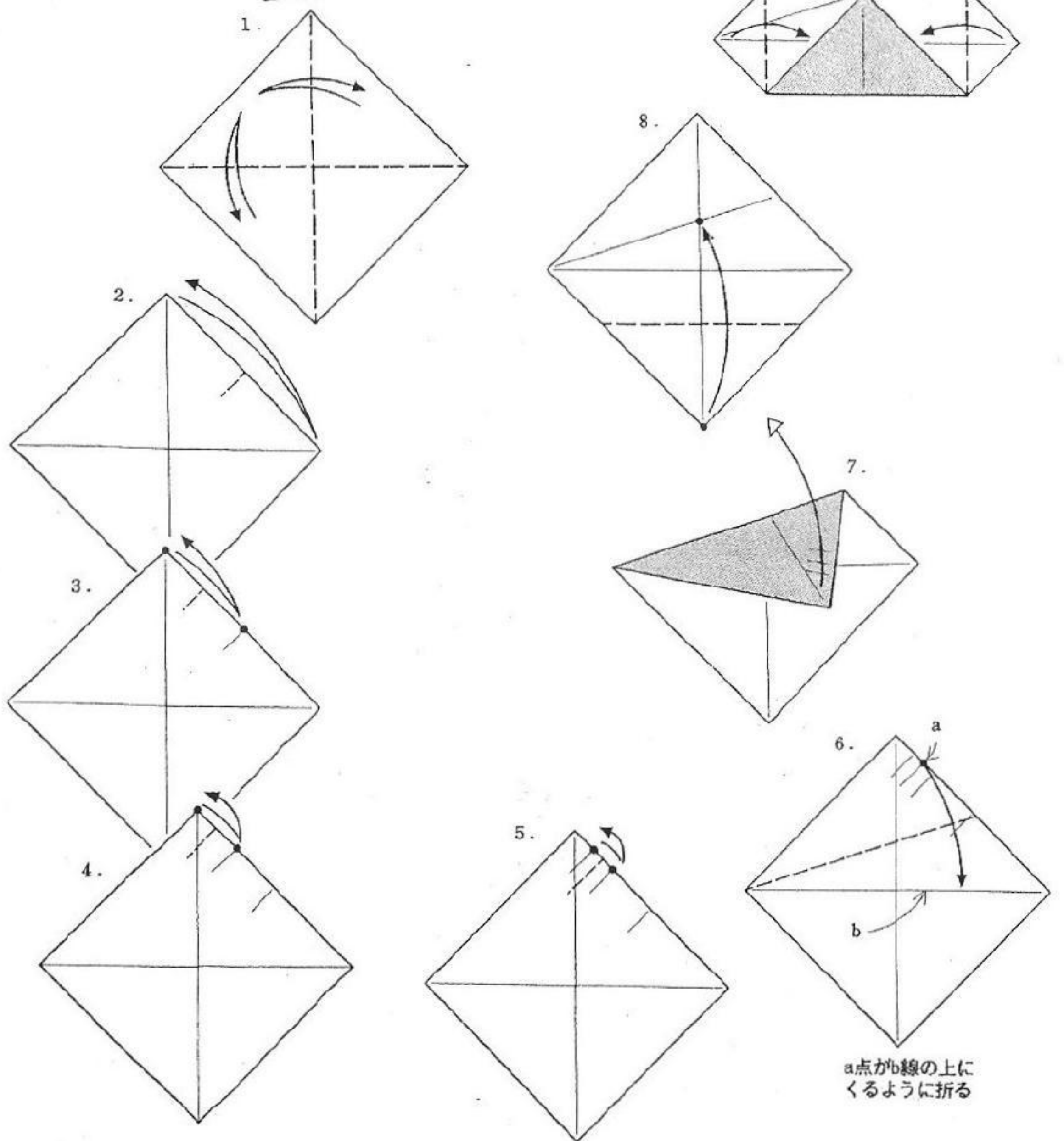
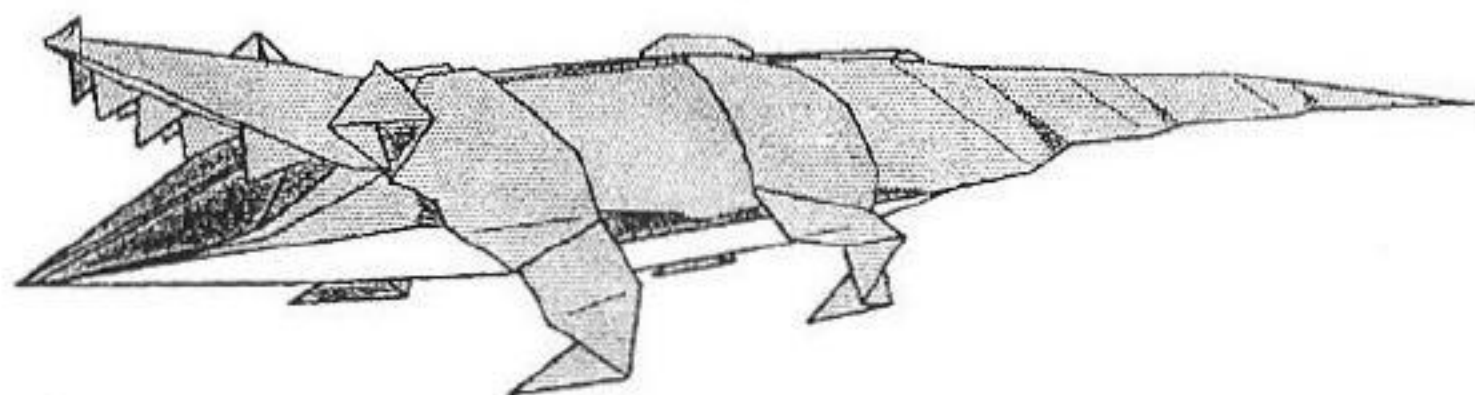


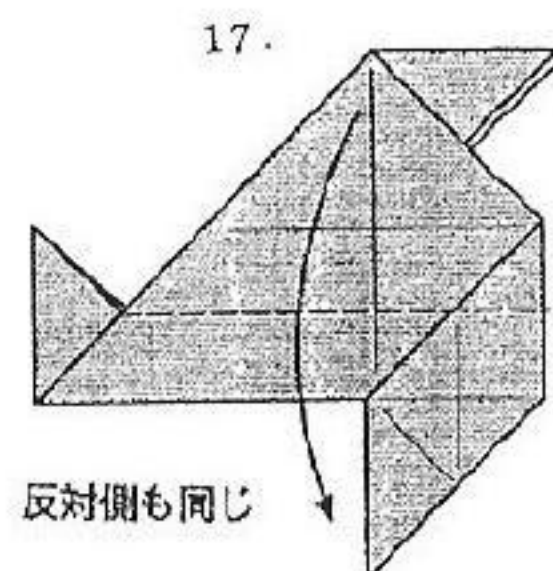
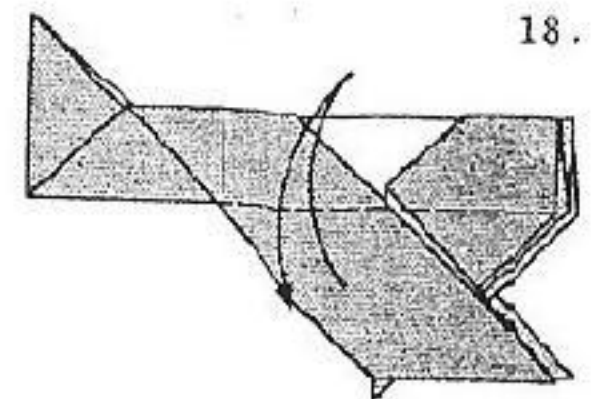
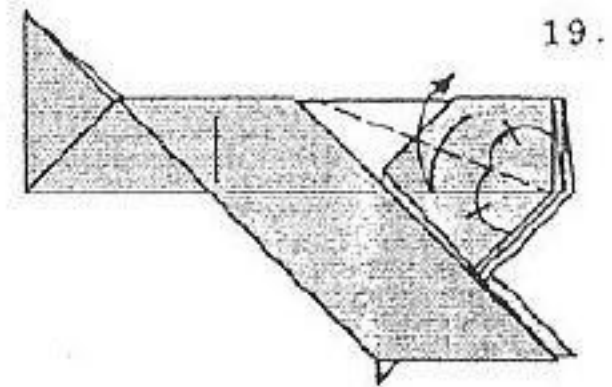
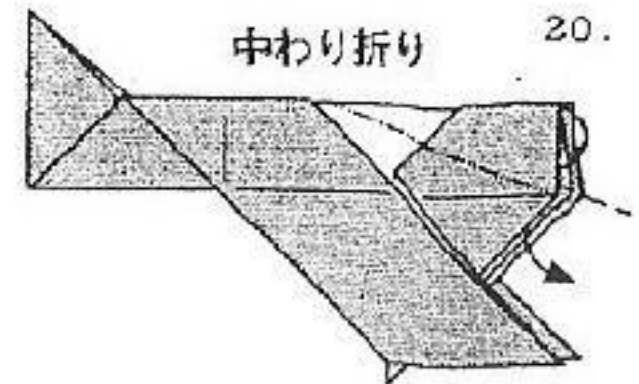
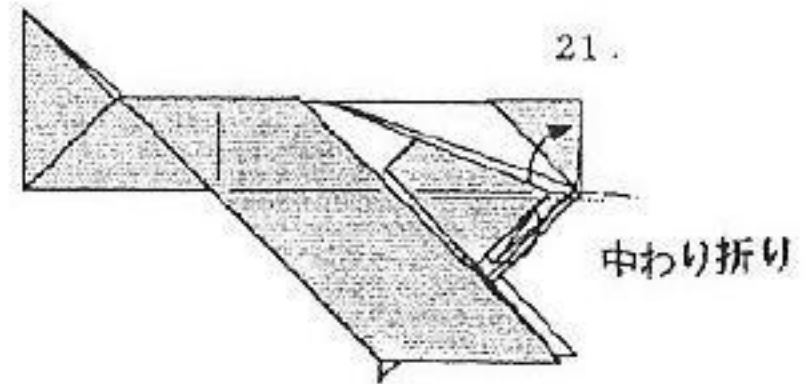
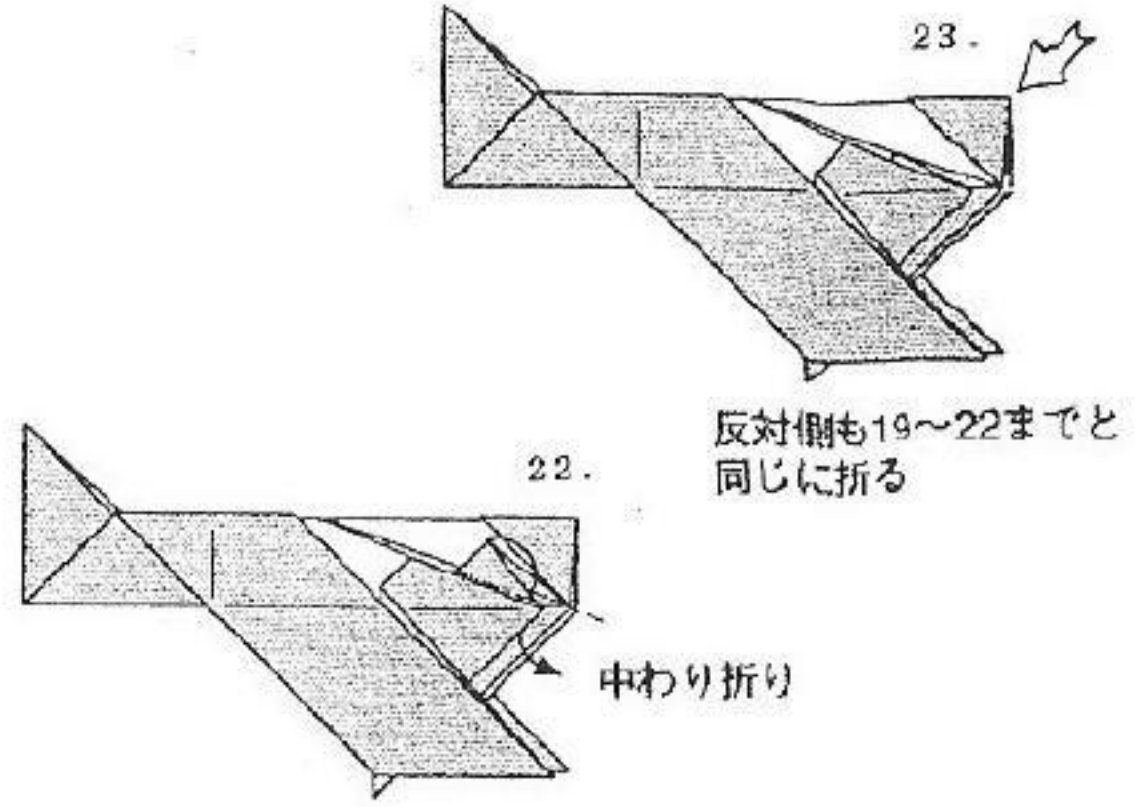
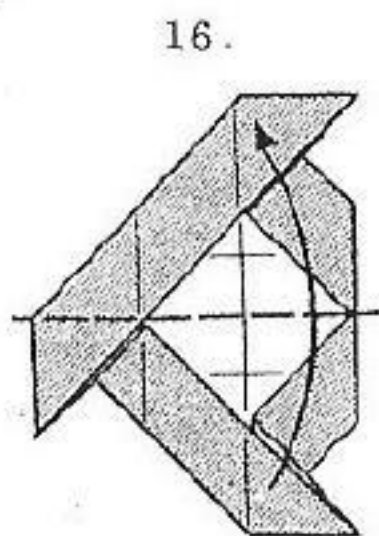
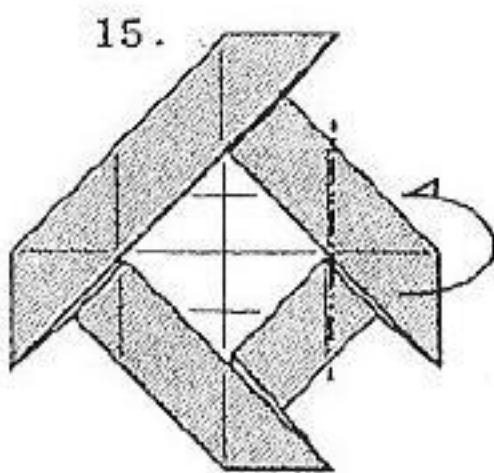
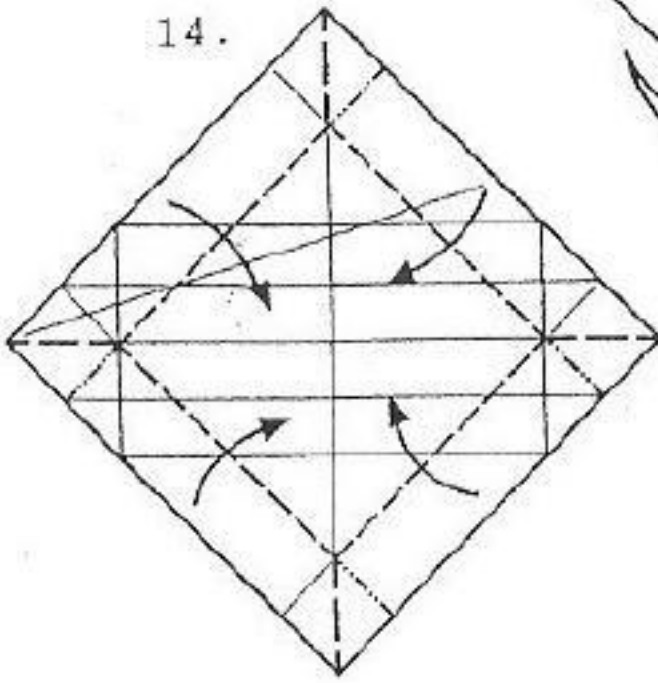
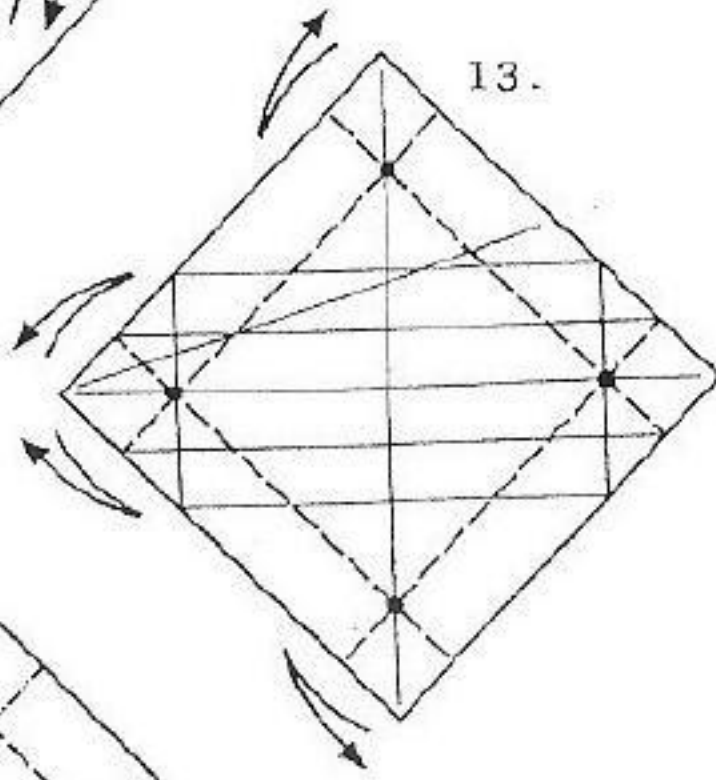
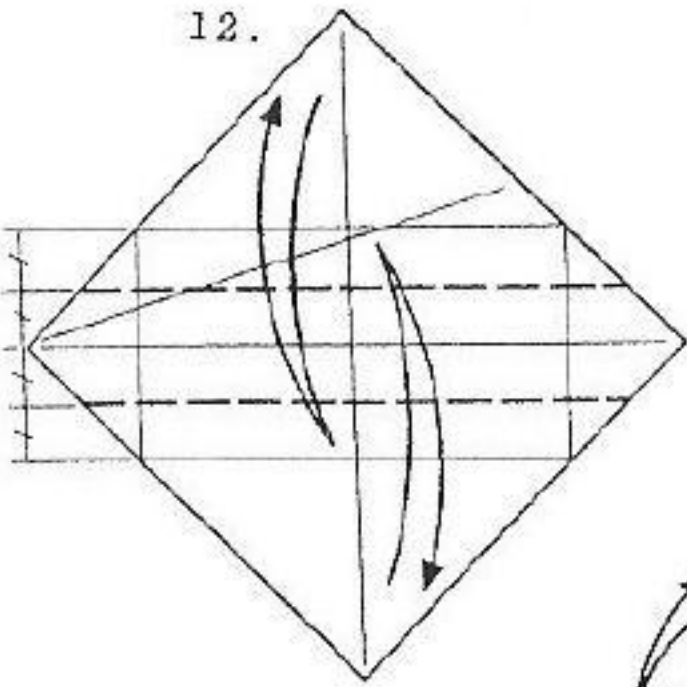
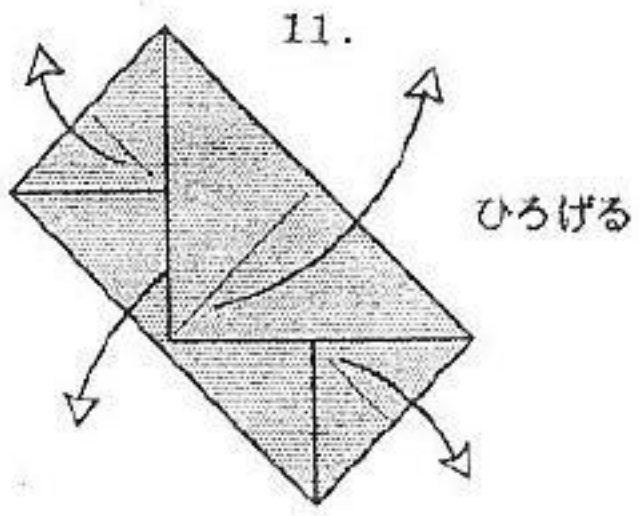
[22] 完成
いろいろポーズを
付けてみてください

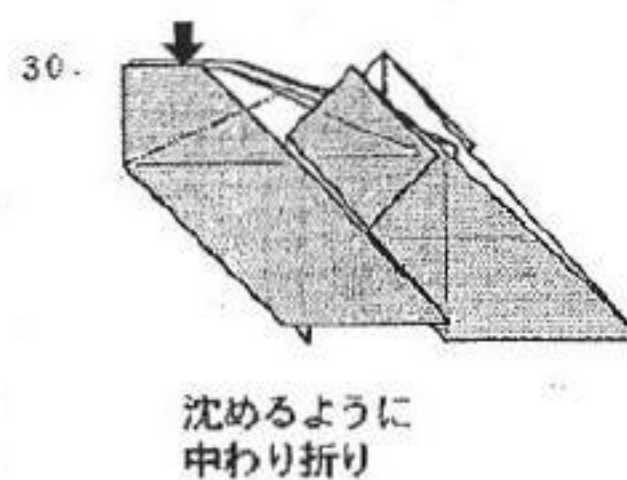
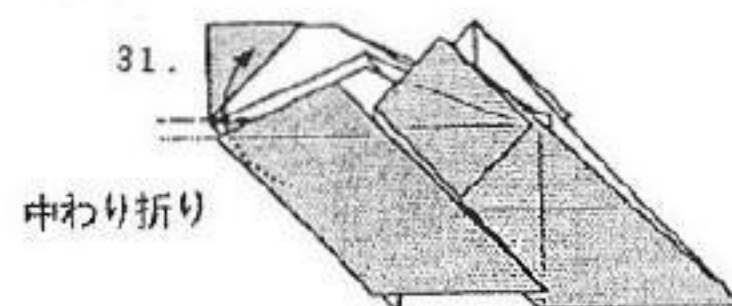
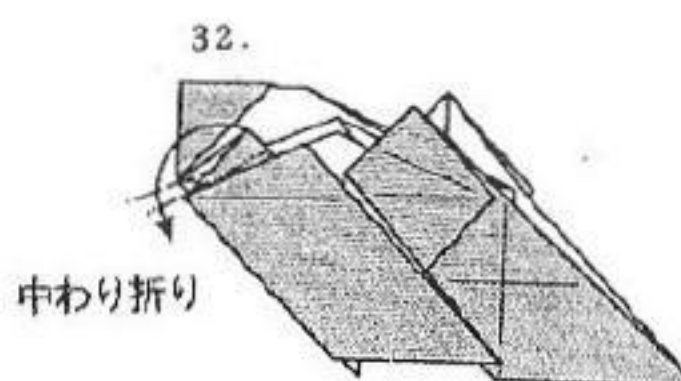
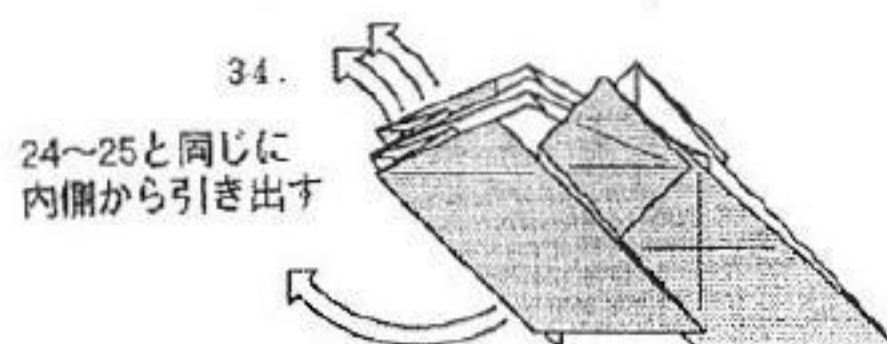
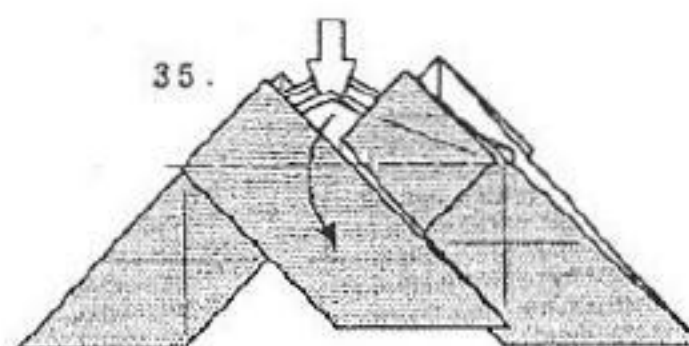
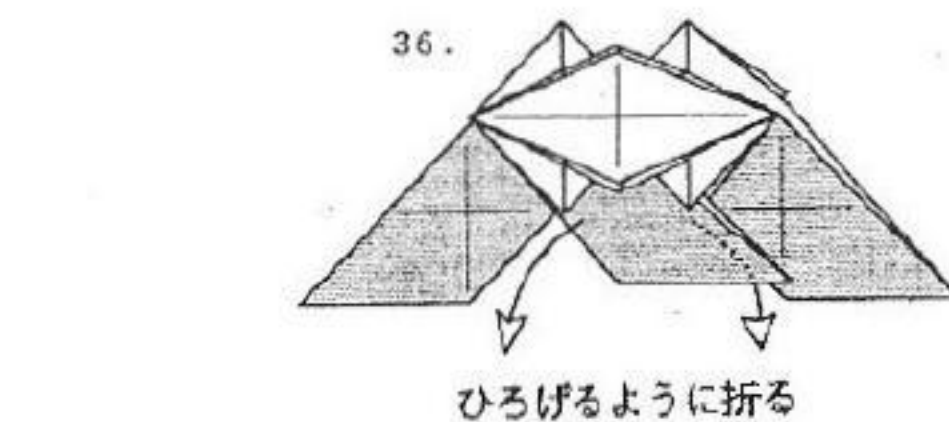
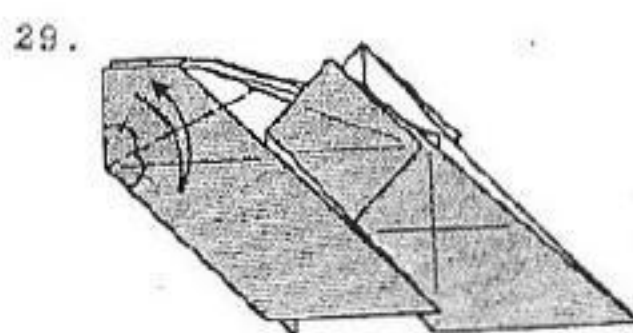
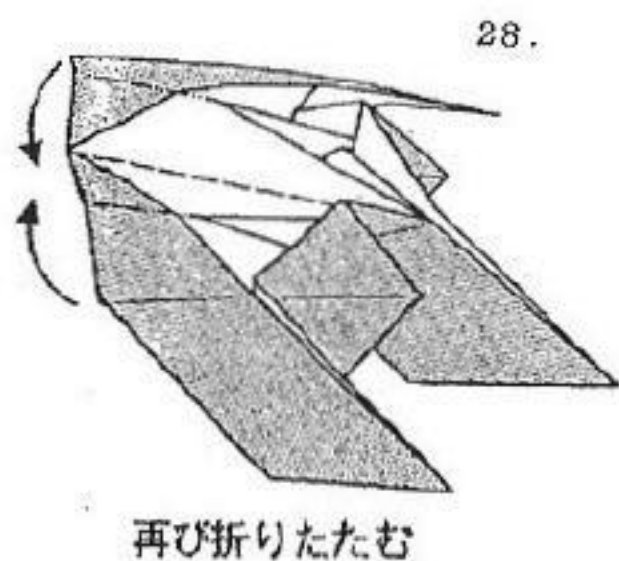
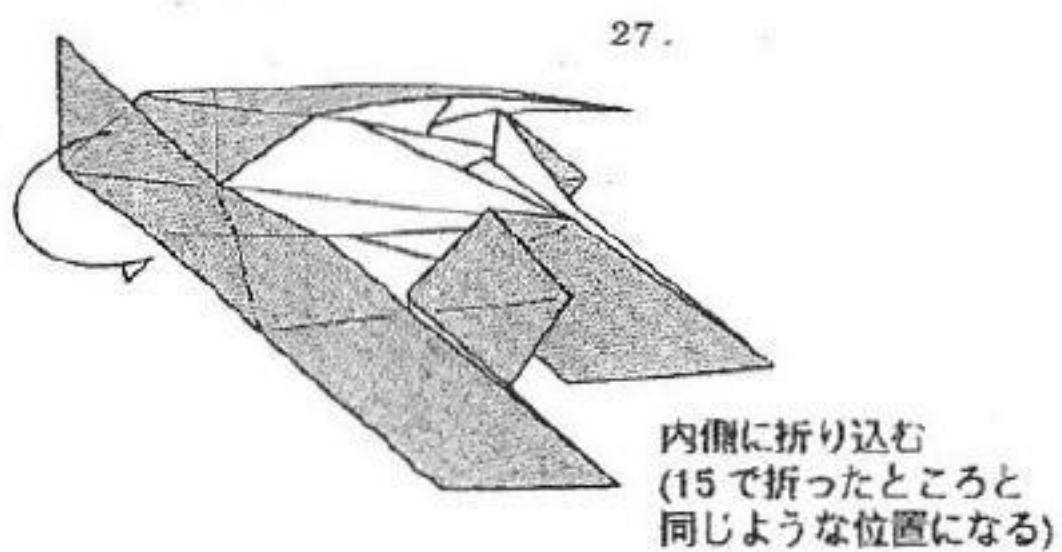
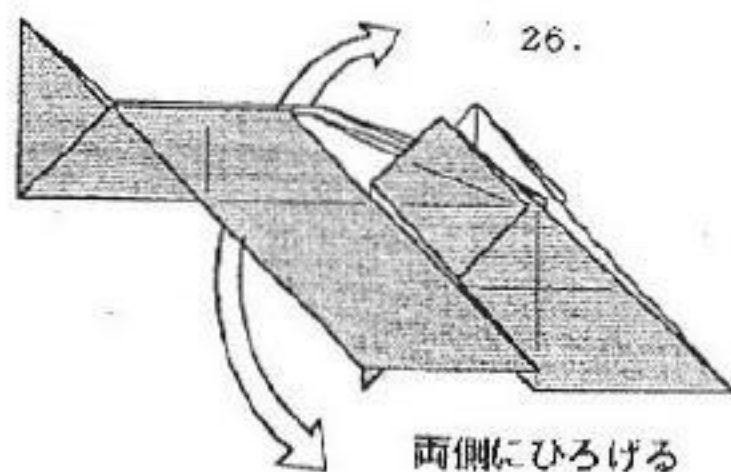
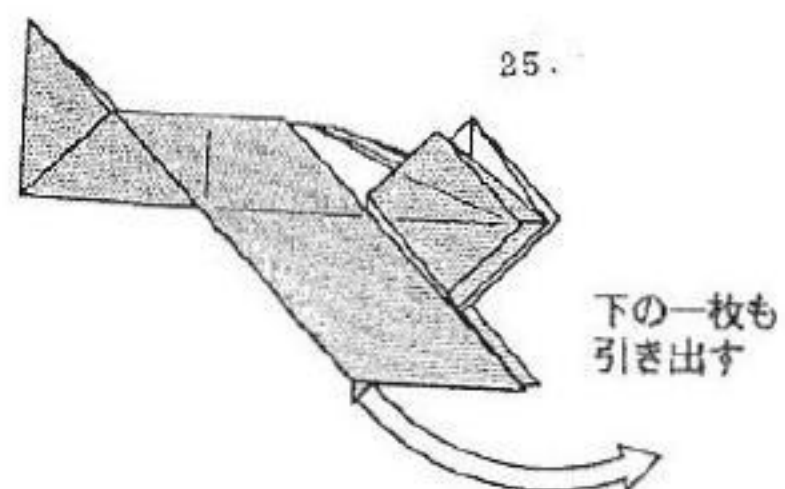
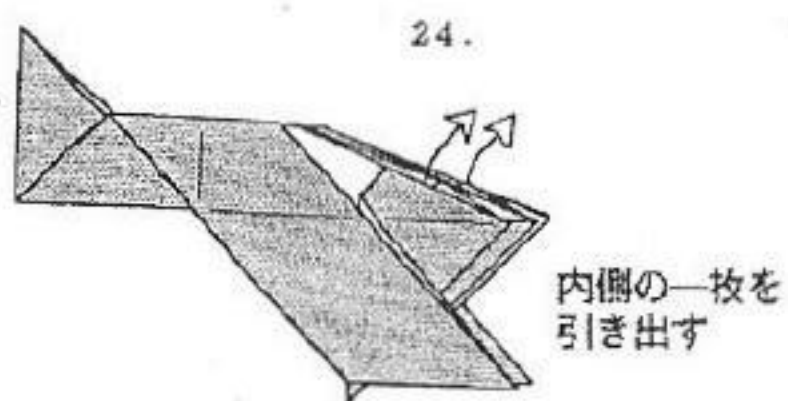


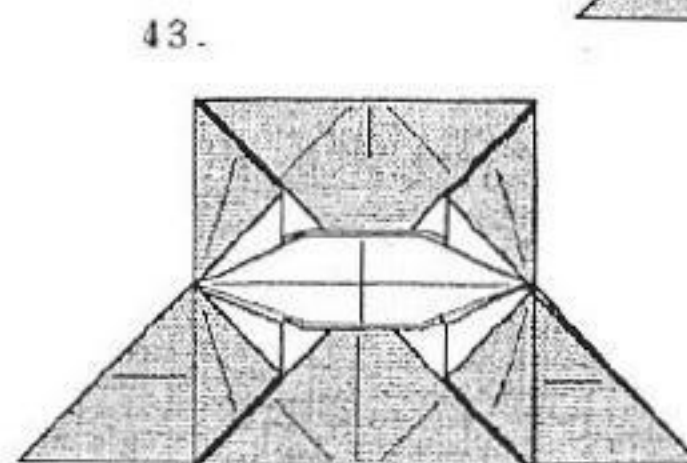
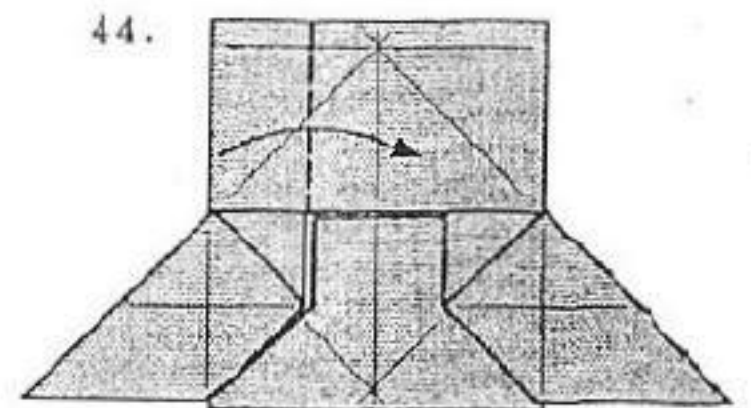
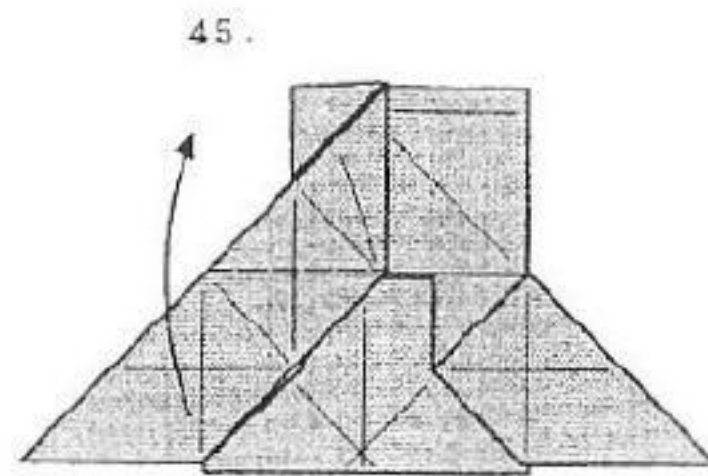
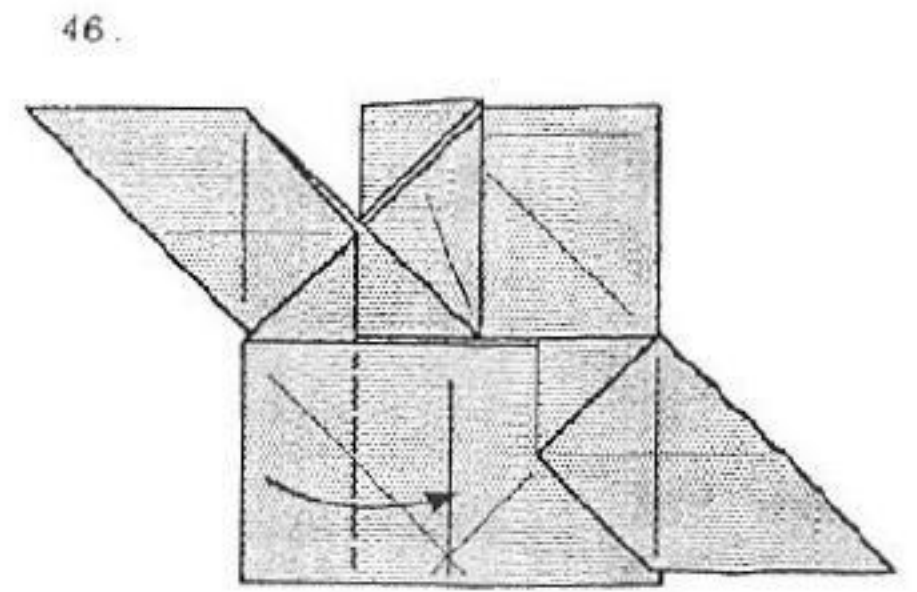
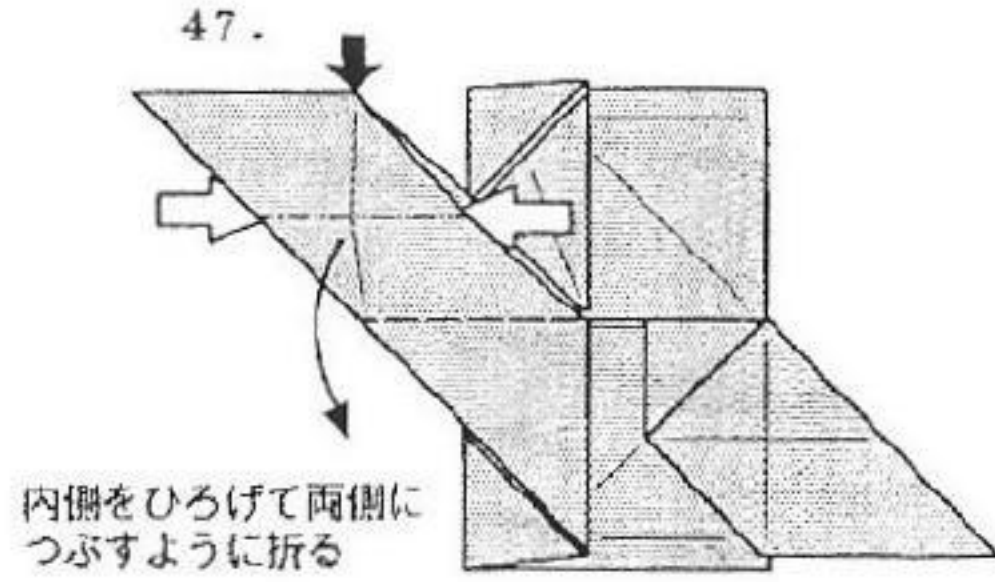
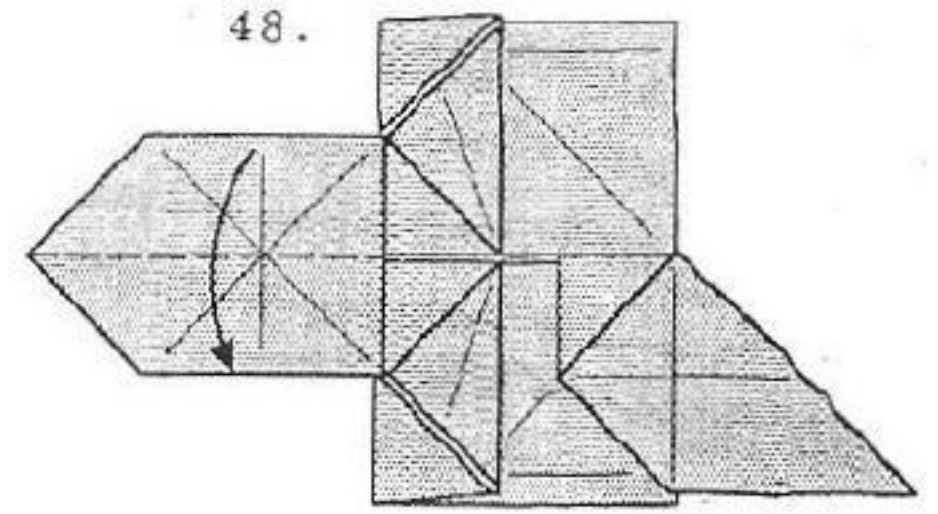
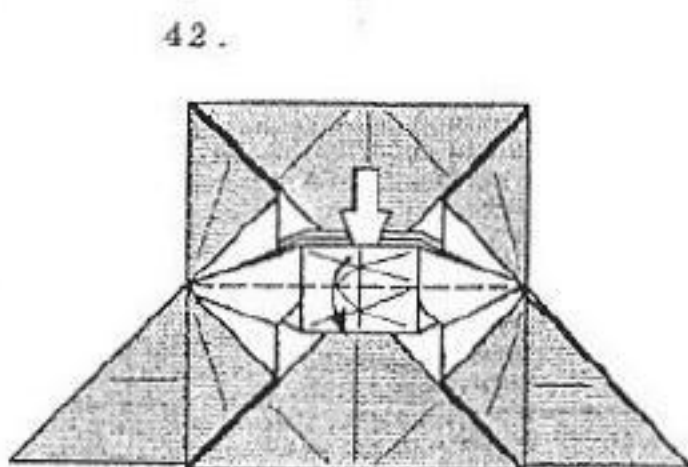
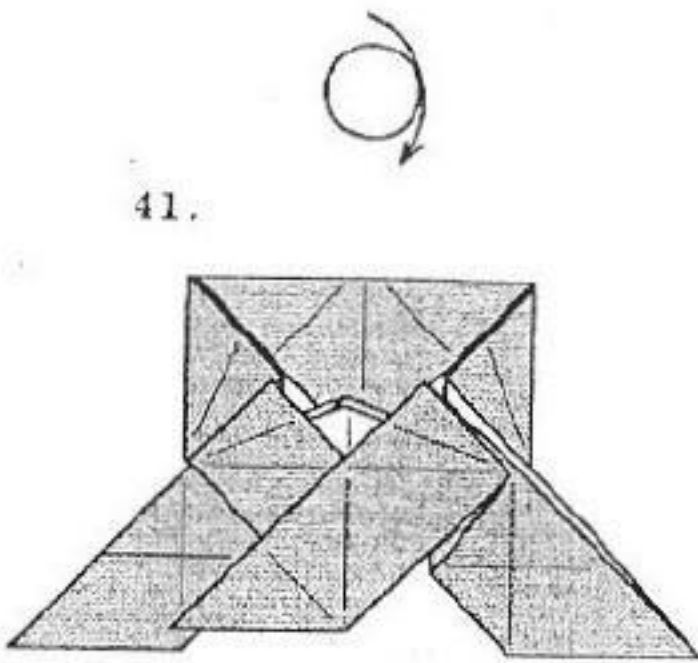
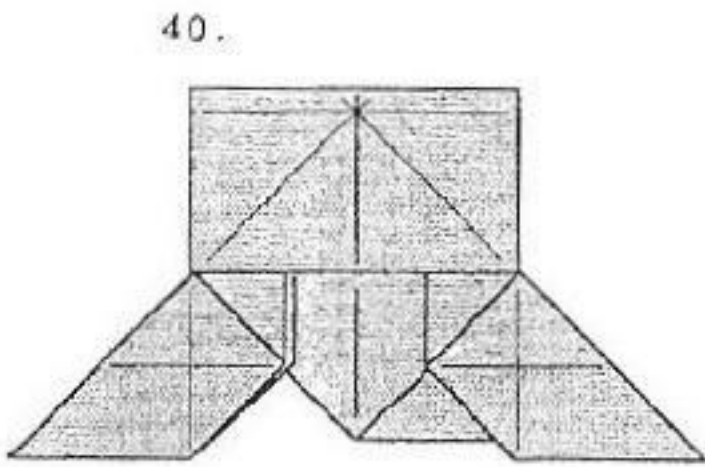
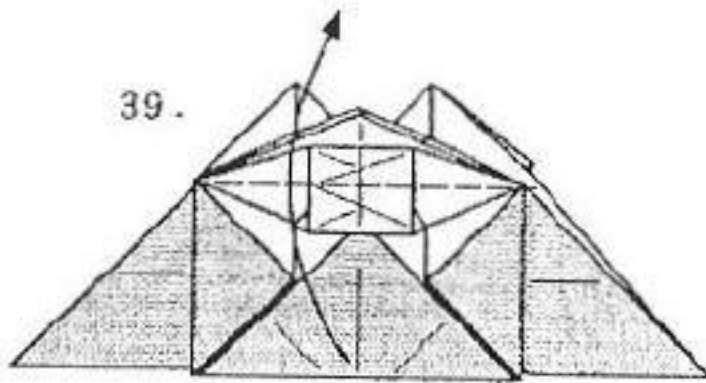
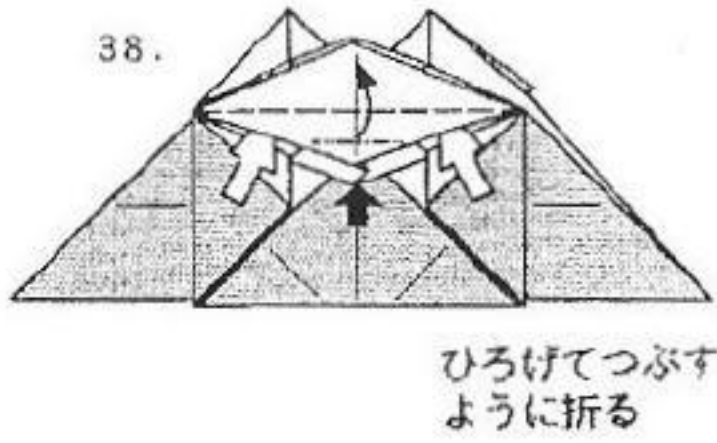
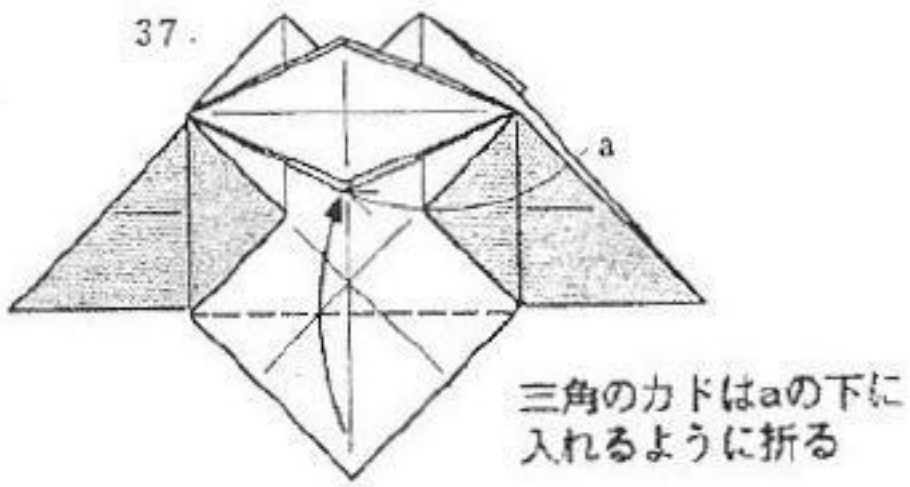
料理長のお薦め品

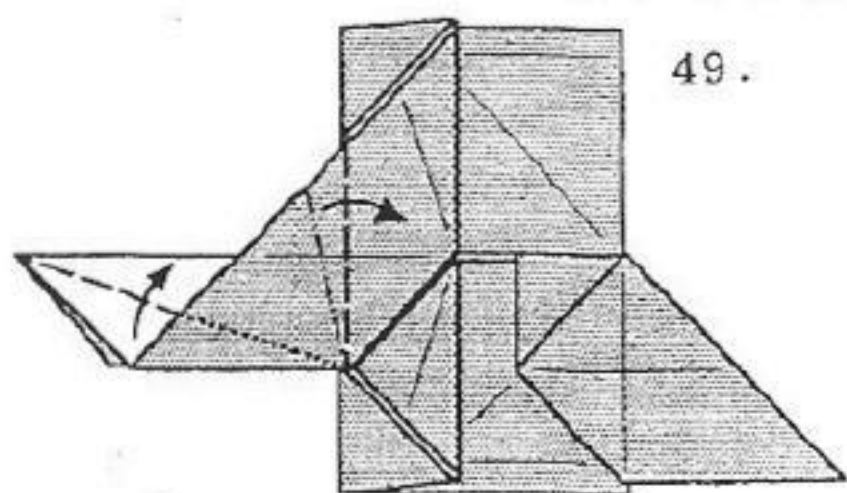
ワニ (その1) 作・図 川畑 文昭



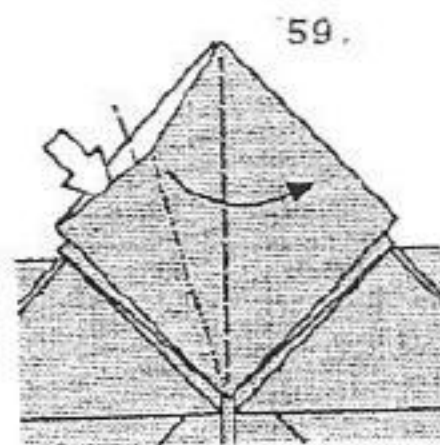




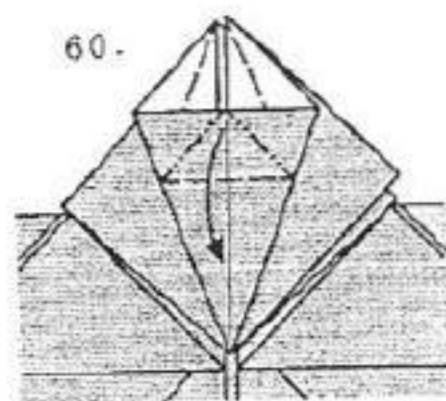




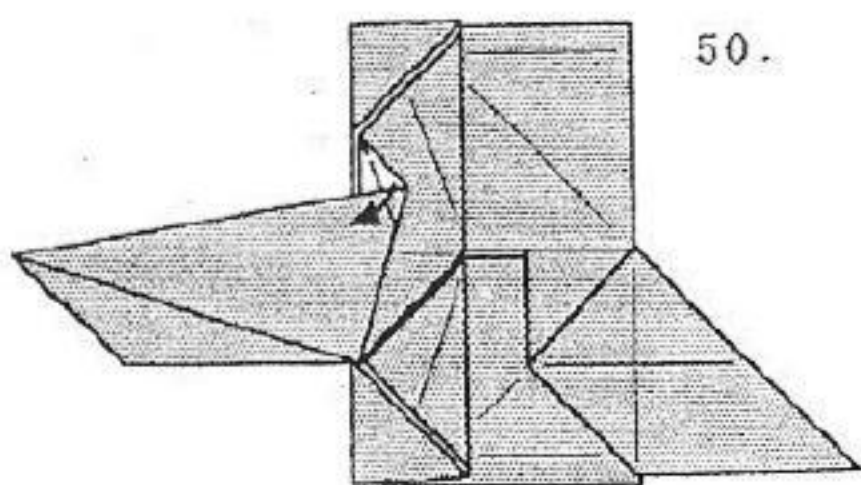
49.



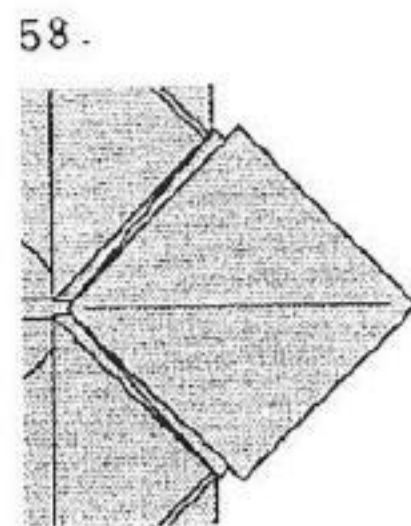
59.



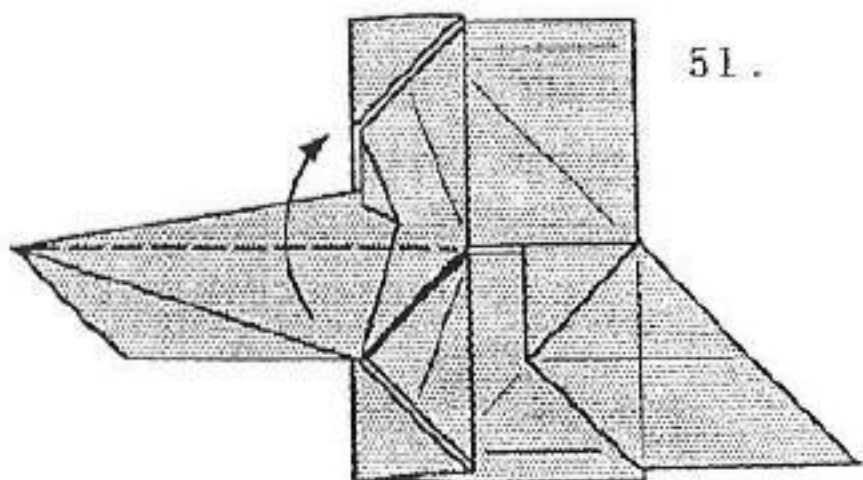
60.



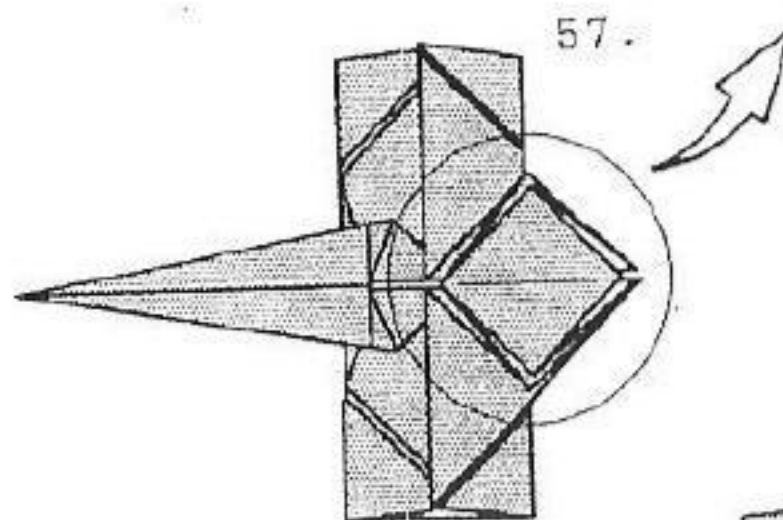
50.



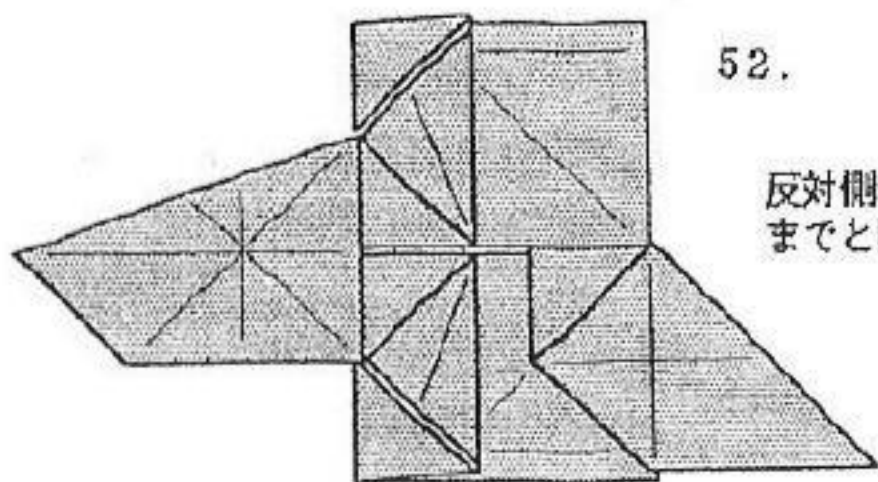
58.



51.

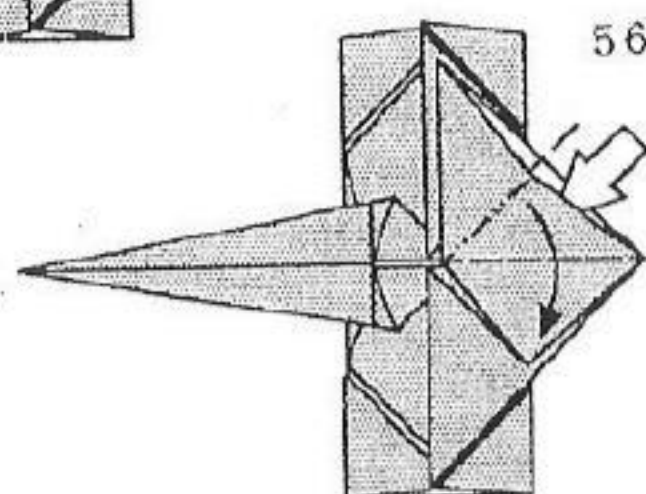


57.

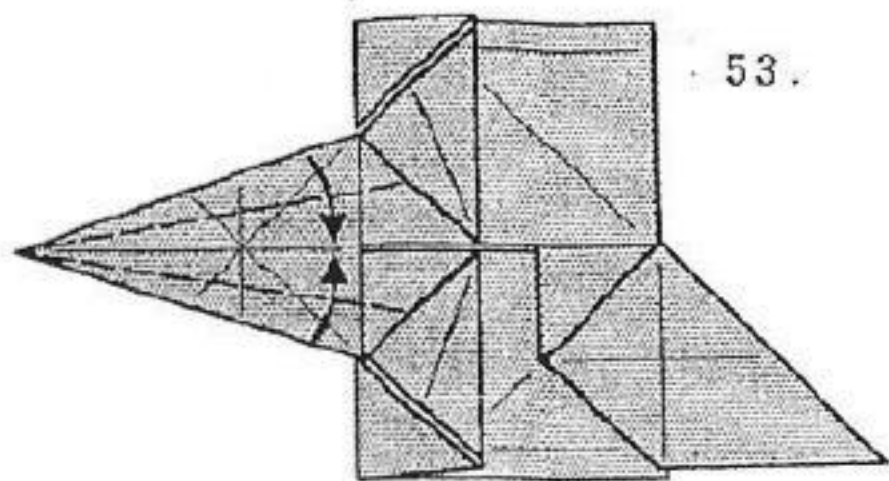


52.

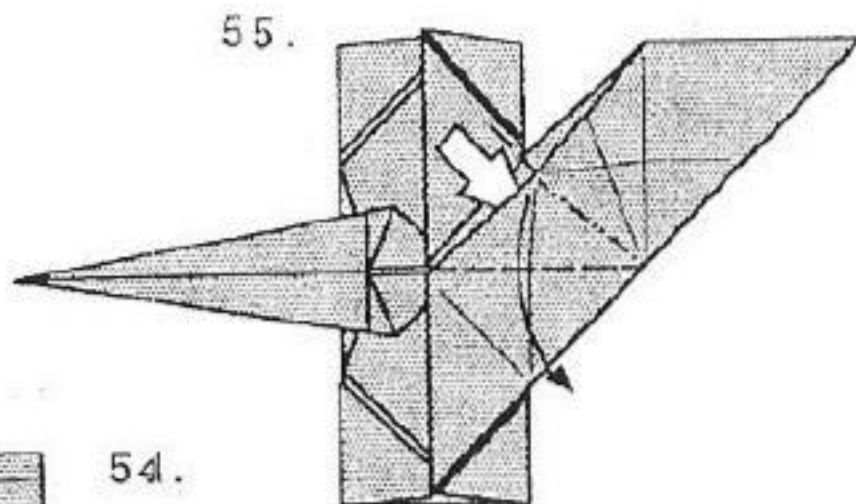
反対側も48~51
までと同じに折る



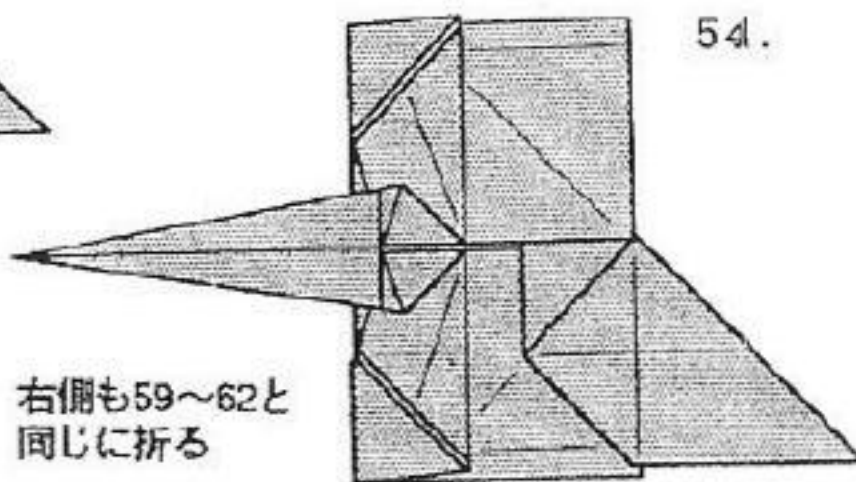
56.



53.

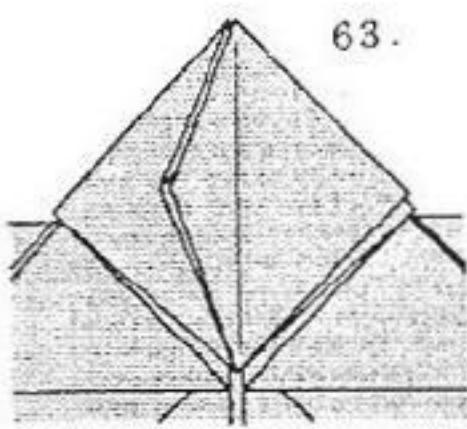
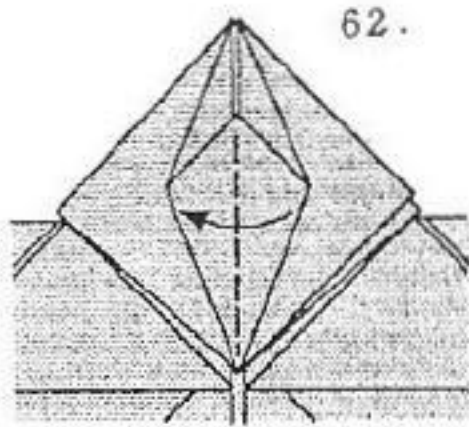
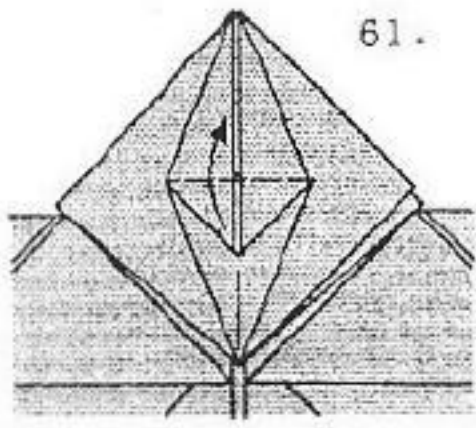


55.

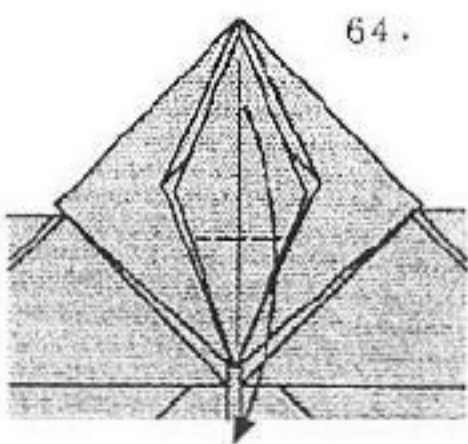


54.

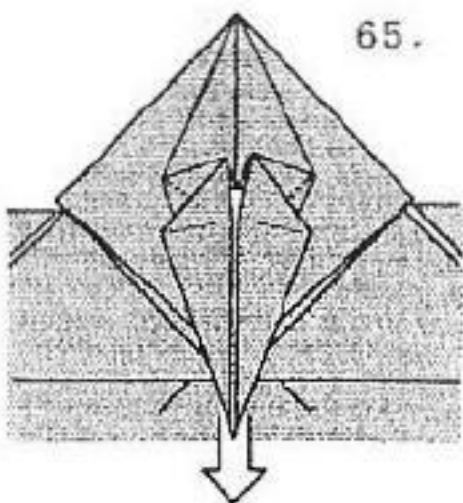
右側も59~62と
同じに折る



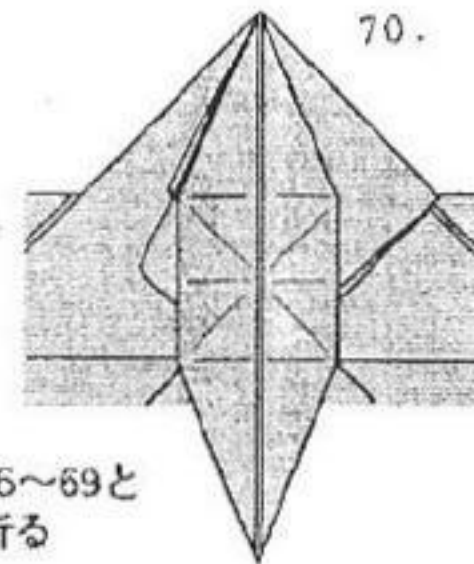
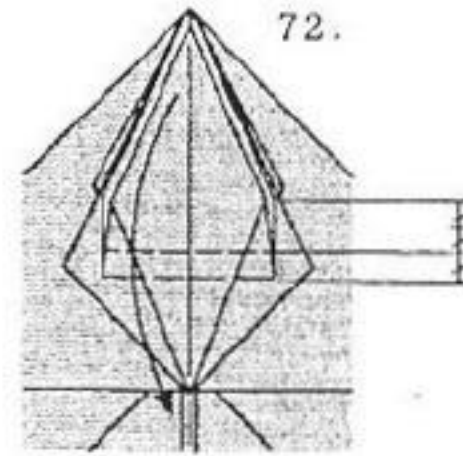
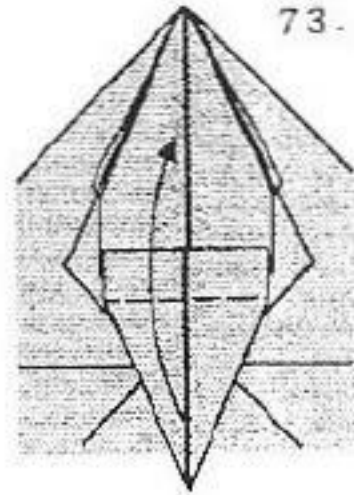
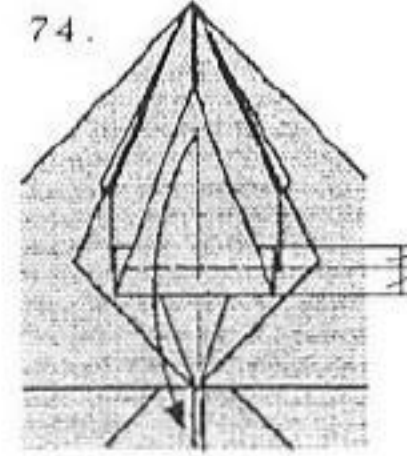
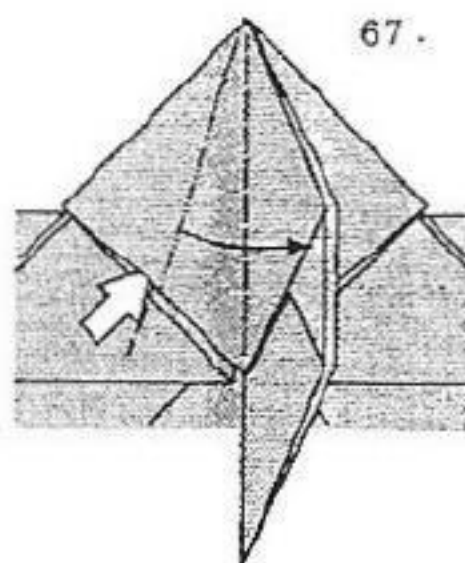
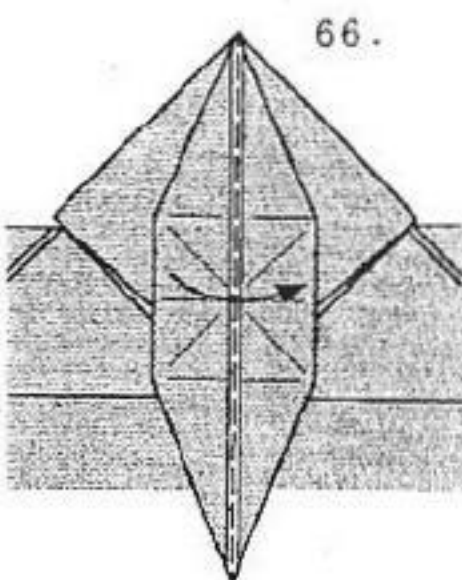
右側も44~46の手順で折る



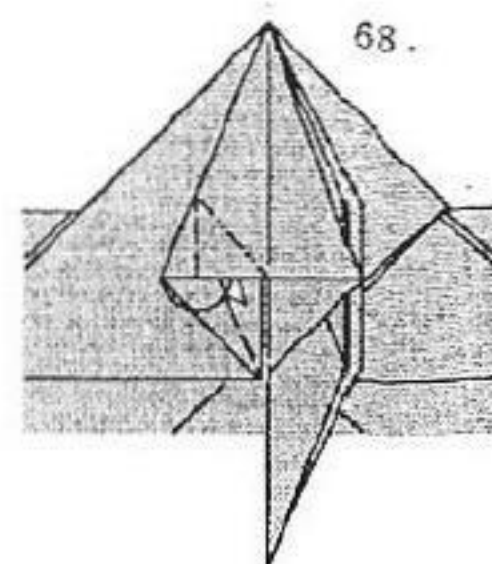
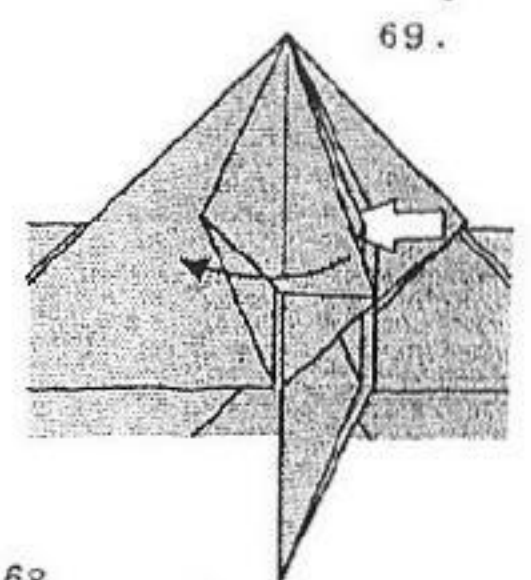
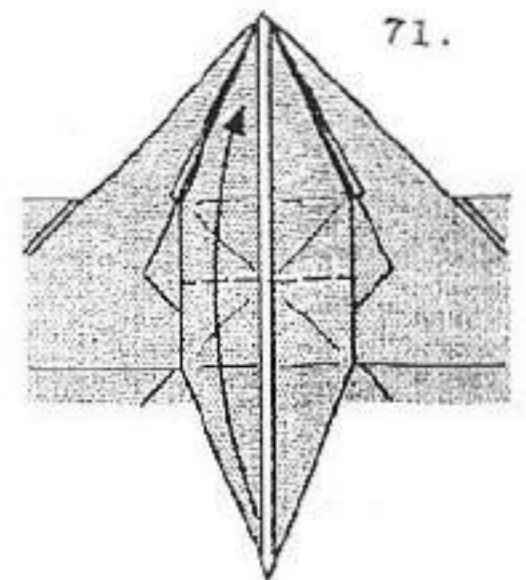
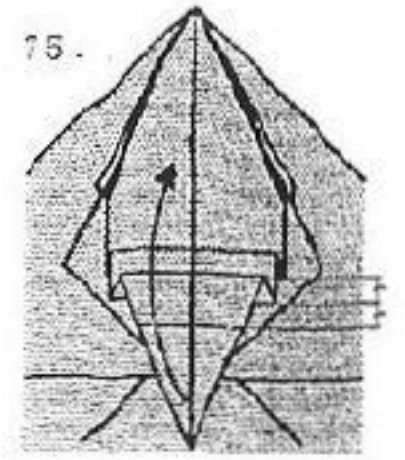
下の方に大きく引き下げる



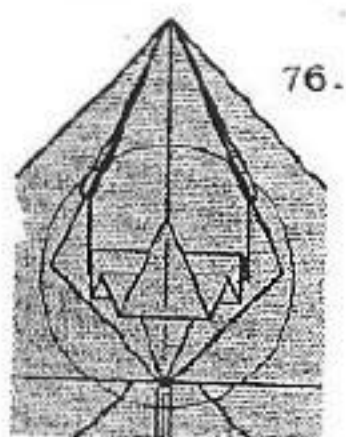
途中の図



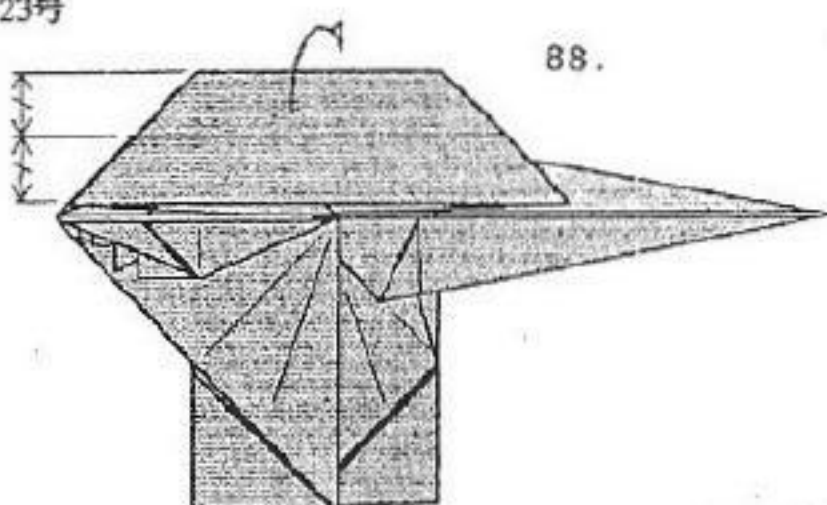
右側も66~69と同じに折る



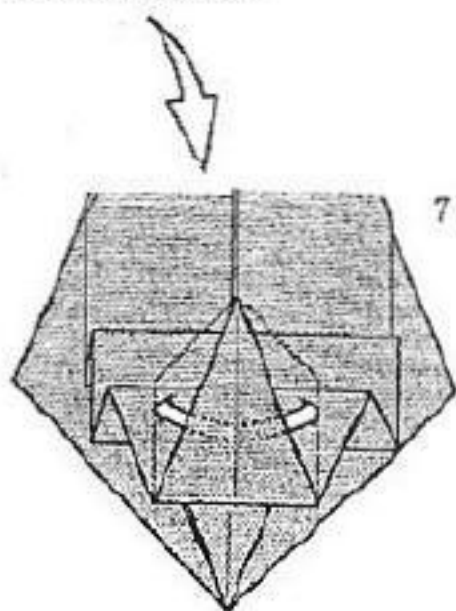
以下次号



76.

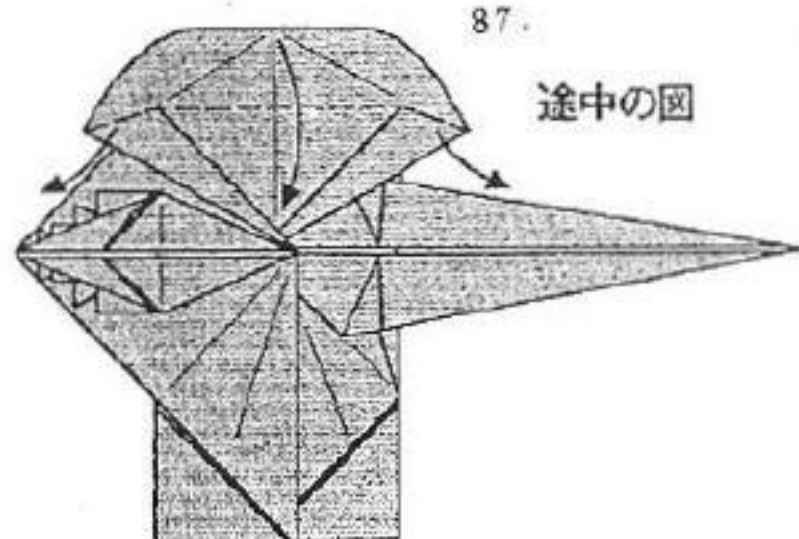


88.



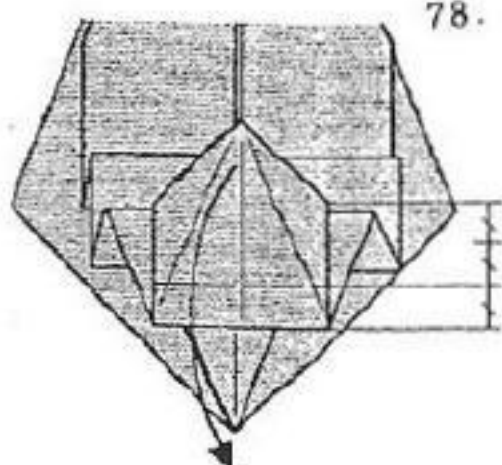
77.

裏側から
ずらすように
して引き出す

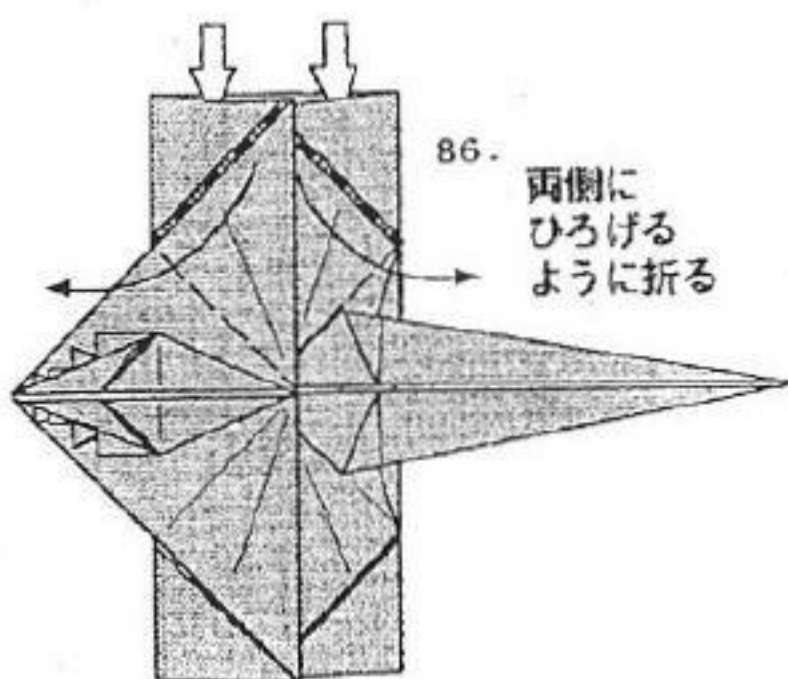


87.

途中の図

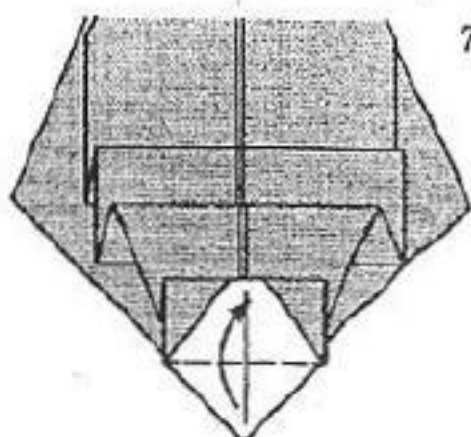


78.

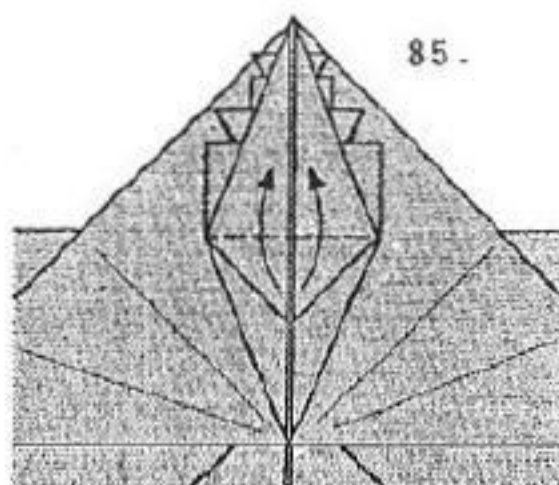


86.

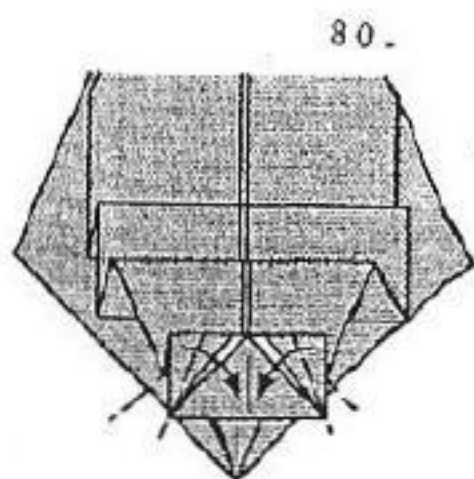
両側に
ひろげる
ように折る



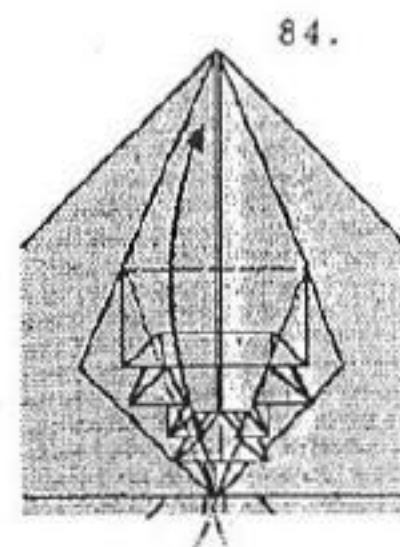
79.



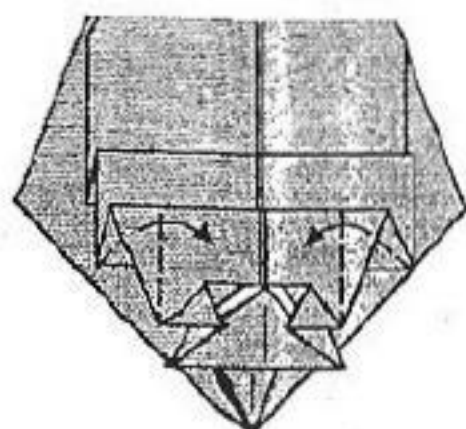
85.



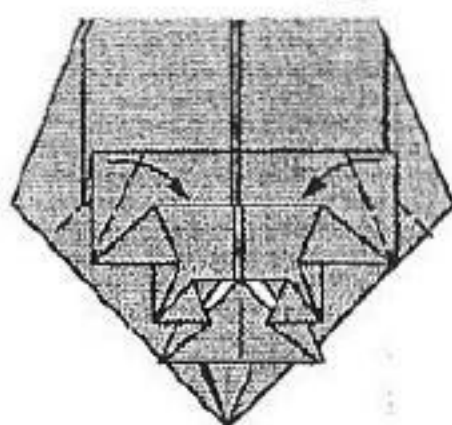
80.



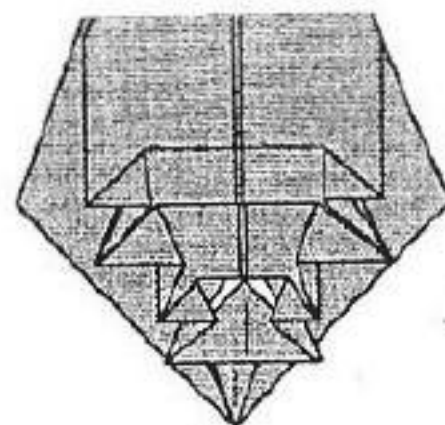
84.



81.



82.



83.

鉢植えのサボテン

CACTUS IN A POT

8

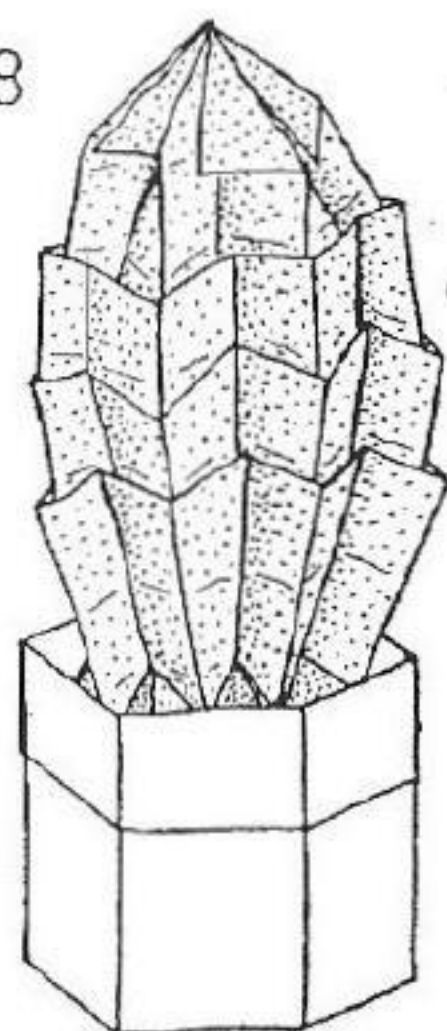
デビッド・ペティ

by David Petty

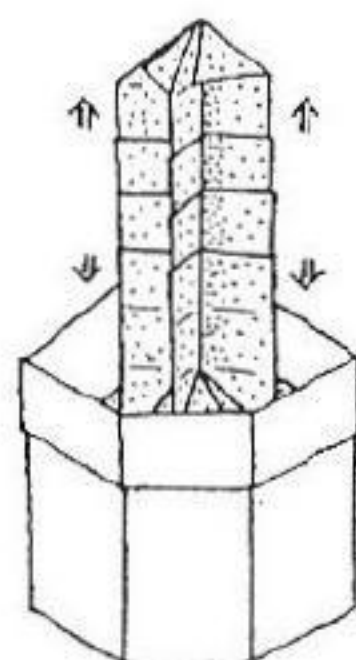
今年8月にブリル氏と共に来日したイギリスのペティ氏から折り図を戴きました。ペティ氏は、背の高いいかにもというイギリス紳士で「動くハート」はNOAの箱根シンポジウムですっかり有名になりました。今回ご紹介する「CACTUS IN A POT」は、氏の名刺にも印刷してある代表作です。

1/16

use 2 x 1 rectangle

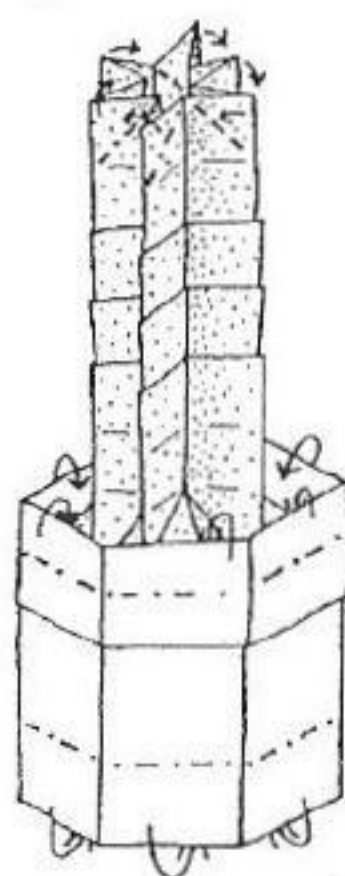


7



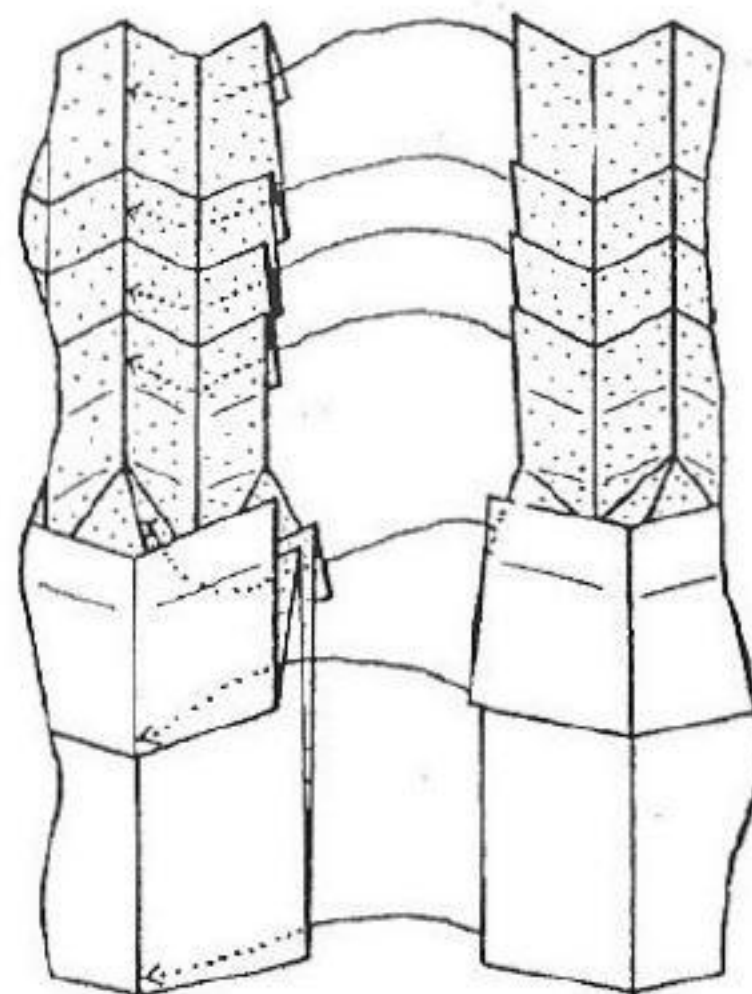
それぞれ重なっている部分をずらすようにして立体にする

6



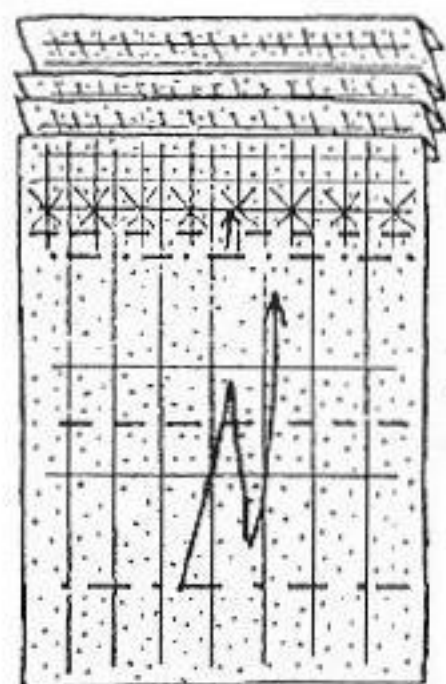
内側に折り込む

5

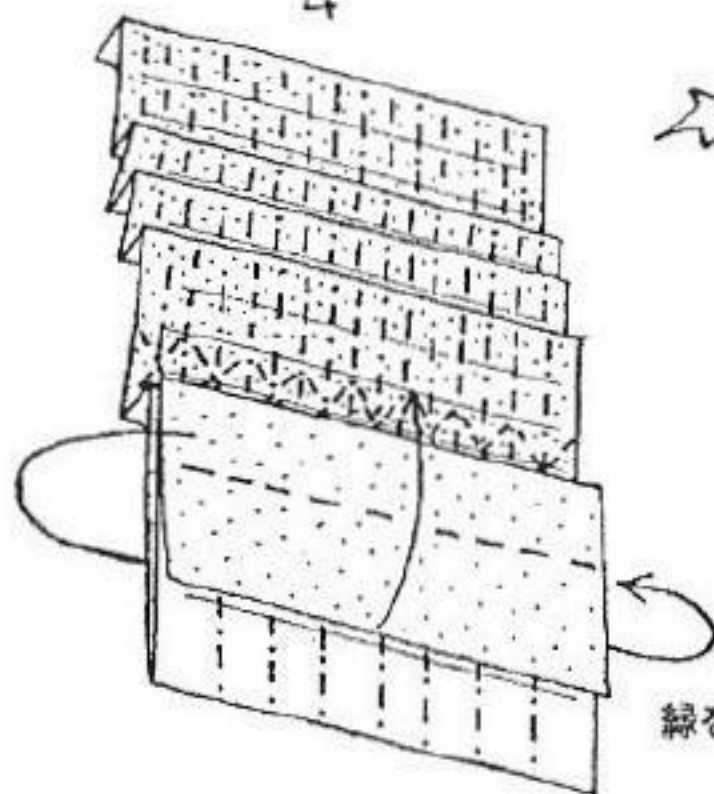


1/8分をそれぞれの隙間に差し込む

3

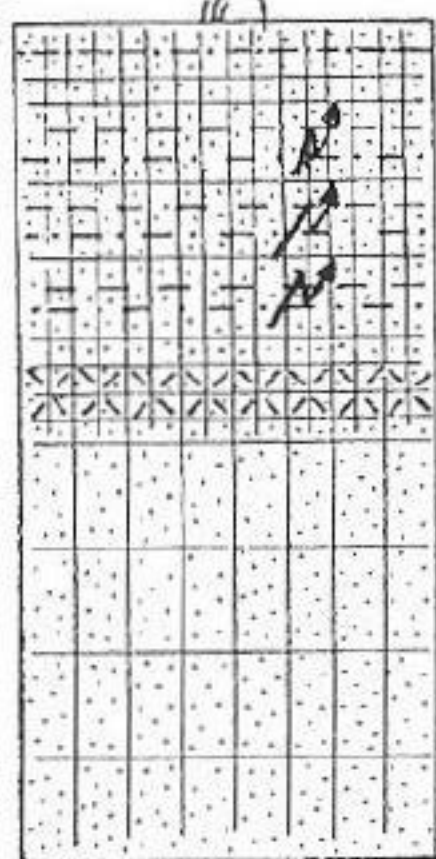


4



線をもって輪にする

2



段折り
段折り
段折り

1/8

1/16

1

1/4

ファイル 特稿

展示

特集

特別

バハレーン

バハレーンはペルシャ湾に浮かぶ淡路島と同じくらいの小さな島で、世界地図で見ると国名の文字に隠れて姿が見えない位の小さな国である。香港経由で14時間余りの飛行で、到着する。ホテルまでの運転手の方が、"Welcome to Baharain."のうれしい挨拶をくれた。訪れたときはちょうど涼しい時期だったようであるが、日中は30℃を越え、中東と言えども海洋性の気候のため湿っぽく、大変蒸し暑い毎日であった。夏の間は更に40℃を越え、ほとんど仕事が進まない、経済活動の止まった世界になるそうである。ただ、室内は大部分エアコンが効いているため、外に出歩かない限り、あまり暑い思いをせずに過ごすことができた。

訪れた首都のマナマは島の北の外れに位置し、日本と変わらぬ位に物が豊富であった。私はここでアラビア語のコンピュータソフトをおみやげとして購入した。

紙に関しても想像していたよりは豊富であった。ただ、"折って遊ぶ"

中東、アフリカおりがみPKO

Peace Keeping Origami

去る10月9日から31日までの約3週間、榎本宣吉氏、吉野一生氏の両名は国際交流基金より中東、アフリカ4カ国に派遣され、折り紙指導を行ってきた。これは日本折紙協会の推薦により実現しているもので、ここ数年数名が選ばれ各国を訪問している。

レポート(1) 吉野 一生

行為はやった事が無いのであろう、想像していたよりはるかに"折れない"のが現実であった。セッションのたび毎に講習作品がどんどん簡単なものになり、最後はほとんど伝承作品になってしまった。改めて伝承作品の持つ伝承性の意味や力を思い知った出だしであった。

オマーン

バハレーンの大使館の方と別れの挨拶をかわし、出発後1時間半で次の訪問地オマーンへ到着する。一見して山々が遠くに連なり、バハレーンのあの平坦な印象とは全く違った

印象を受けた。

オマーンはアラビア半島先端に位置し、中東の国にはめずらしく石油のあまり出ない国である(実はバハレーンも出ない)。このためか、現在の国王は教育に大変熱心で、かつて3つしかなかった学校が、現在は千を越える数に達しているとの事であった。(石油が出ない分、人々を育成しようとのことであろうか...) われわれはこの中のいくつかを訪問することになった。

初日にTV撮影があったが撮影班は遅れに遅れ、1時間半してやっと来た。中東の人々の特性なのである



＝新連載＝ 読切折紙小説 紙の音が聴える[1]

たかだ きこう
高田 欣幸

暗闇の広がり片隅で、サーチライトの赤い光の筋が、二度三度点滅した。

僕は校舎の方にちらと目を向け、すぐに校門の鉄柵を乗り越え身を小さくかがめながら、プラタナスの大木——愛称リン——のところへ駆け寄った。

「ゴメン、母さんになかなか理由つけられなくてさ、ケンイチの所に借りてきたモノ返すってコトで」

「オレんどこにしたの？」

「一番安全だし、電話する可能性がまず無いからね！」

「ま、いっか」

すでに二十人程集まっていた。

皆手に様々なものを持っている。

色とりどりの紙テープや真っ白な綿、紐を付けたビーチボール、ゴム風船、ぬいぐるみをビニール袋にいれて抱えている女のこもいる。

僕は三十五センチの折紙を見つけてきて、ふたごぼし、ツインベル、トナカイの親子などを折ってきた。

何を考えているのかトイレットペーパーのロールを持って来たヤツも。

「ジュンは何持ってきたんだ」

この計画の発案者であるケンが訊く。

「紙テープ」

「月並みイ」

と、数名の声。

「ゴメンねえ」

九時三十分をまわった頃には、クラスの大半が集合した。

「もう始めてもいいんじゃない？」

マユミが限界といった感じで呟いた。

「ダイキチがハシゴ持ってくるはずだったんだろう」

「仕方ないさ」

その時校門のところで巨きな影が動いた。

「きたっ！」

「合図のライト」

緩慢な動作でダイキチが門によじ登ろうとした瞬間、教員玄関のわきから出てくる小さな影が僕の目に飛び込んだ。

「待って！警備のオッチャン」

「合図ストップ、ストップ！」

しばしの沈黙。

そして。

「何やってんのよオ」

「名前、ダイキョウに変えた方がいいな」

「今日は仏滅だったもんね」

オッチャンに追いかけていく

うか、約束の時間を守らないのは当たり前なようである。以前来なかった事もあったそうで、来ただけましだとのことであった。...

1日のオフを利用して市内観光を行なった。魚市場を見物し、以前大阪で展示した作品のモデル、"マンタ" (そっくりの小さなエイ) や"バラクーダ" に初めて出会うことができた。まさか同時に両方に会えるとは、... あの時の展示のイメージはオマーンの海がモデルだったのかも知れない。... と、ひとり納得しながら眺めて歩いた。

次の日からのセッションは大部分1時間前後で、私(吉野)が猫や象を折ってデモンストレーションし、その後で榎本氏がコップ、サイフ等の伝承作品をみんなと一緒に折った。この方法は、バハレーンの講習の中で開発(?)され、以後各国で使うことになった。今回の生徒は学校の美術の先生、教育短大の生徒、10歳前後の子供達であった。

また、イスラム教上の理由から犬と豚は折ったり見せたりすることが出来なかった。(実に不思議であった)

おりがみ供養

1993年11月11日、東京、文京区の白山神社で第1回のおりがみ供養が行なわれました。

これは日本折紙協会設立20周年記念事業の一環として催されたものです。午前中の準備の際には激しい雨が降っていたのですが、おりがみ供養の始まるころには幸い、雨も上がりました。平日(木曜日)午後4時ということもあり、何名の方が見えるのが心配されましたが、約60名の方が参加されました。供養は滞りなく進み、参加者の折った折り鶴のお焚上などがありました。

その後6時から、文京区民センターでおりがみの日の提唱者である、長野耕平氏(日本折紙協会常任理事)偲ぶ会が開かれました。

おりがみ供養は第1回ということもあり、準備、すすめ方等に参加していただいた方には不満に感じられたことも多々あったかと思えます。ぜひ2回目以降にそれらを生かしていきたいと考えていますので、投書等ご意見をいただければ幸いです。

(実行委員 高井弘明)

今年の探偵団

- | | |
|-----|--|
| 1月 | 前川氏復活 |
| 2月 | 川畑氏 著書出版
探偵団新聞新・3年もったの18号 |
| 4月 | 探偵団新聞新・お花見気分で19号 |
| 5月 | 「をる」創刊
コンピュータ雑誌 ORIO ver. 1.0 完成 |
| 6月 | 探偵団新聞新・名刺もできたよ20号
TV・雑誌取材数十件 |
| 7月 | 吉野氏、全身骨格出版
大阪に巨大マンタ出現 |
| 8月 | ブリル氏、来日
探新・今年も夏は大忙しの21号
長野氏、ご逝去 |
| 10月 | 榎本・吉野、アフリカ・中近東へ
折り紙、推理ドラマ 放映
探偵団新聞新・連続増ページの22号 |
| 11月 | 折り紙供養。 |
| 12月 | 「はうす」での個展50回目!
忘年会予約受付中! |

ハシゴをかついだ巨きな影。

「あのバカ」

実感を込めてケンが言った。

「赤いライトが見えてからって約束だったろう、それをしっかり忘れて」「でも振り切ったし、ハシゴもあるし、いいもん持ってきたしよオ」

「何を」

「ほら、打ち上げの落下傘花火!」

一斉に白い目、目、目。

「派手な音のするもん使えるかよ!」

リンを切り倒してしまうことを知ったのは二週間前だった。

僕らの学校は小高い丘の上に建っている。

校庭の端はすぐに急な斜面になっていて、そこにリンや桜の木があり、ちょっとした森といった風であった。

斜面の下には民家が二棟あって、この夏に土砂が崩れて困るという苦情があったそうだ。

そして土の斜面をコンクリートで固めることが決定し、その最木を

リンも含めて一切り倒すことに

なった。

話が広まった時、誰ともなくせめてリンだけでも助けようという声があがったが、それは何の効力も持たなかった。「もう決定したことだから」の一言で片づけられて。

どうしようもない——あきらめの感が漂いはじめた頃のある放課後、ケンが「十一月二十五日」と、口を開いた。

「クリスマスパーティーをやるんだよ、一ヶ月早い——モミの木じゃないけれどリンに飾り付けして綺麗にしてやって——最後のお別れを」

なんとなく残っていたクラスの者たちは初めは驚きの表情であったが、話を聞きおわるころには瞳を輝かせていた。

「やろうよ!」

「リンをクリスマスツリーにするのね!」

こうしてすべてが動きだした。

「OK紙テープ投げて」

「右の枝、ウンそこに雪があった方

がキレイ」

「トナカイはどこに下げる」

見るみるうちにリンは彩られ、飾られていった。

「できたア」

「やったね!」

みながそれぞれその想いを込めて、聖なる鈴懸樹、クリスマスツリーのリンを見上げていた。

やさしい月明かりを浴びながらリンが微笑んでいるように見えたのは、僕だけではないだろう。

そして、リンが自ら造り上げた小さな沢山の鈴、プラタナスの実が風にゆらめき、聞こえるはずのない音を心のなかに響かせていた。

「きーよーしーこーのよー」

マユミが歌いだした。

「ほーしーはーひーかりー」

まわりの状況など忘れていつしか大合唱となり——

ひと月早いクリスマスが幕を開けた。

—了—

おりすじ

もっと時間を！

中西 健一

段ボールの箱にいっぱい折り紙を折り溜めていた私は中学に上がるころ、世間に何となくある折り紙を続けることに対する逆風（笑）と、パソコン（当時はパソコンのことをこう言った）の魅力とに抗し切れず、旅先で折る以外はほとんど離れてしまっていました。

ただ、その当時から『格好いいカマキリを折りたい』という気持ちはあって、2枚折りのカマキリは時折試作していました。

昨秋、ニュージーランドに旅行をしたとき、たまたま入った本屋さんで、カマキリの折り紙が表紙に載った本を見付け、それが長方形ながら1枚折りであることにショックを受け、旅先の乏しいキャッシュの中から大枚(?)を叩いて買い込んだのがR.Langさん、S.Weissさんの"Origami Zoo"でした。

以来、一葉不裁（不切1枚折りのことを私は勝手にこう読んでいました）の正方形によるカマキリを遠大なる目標に創作を再開しました。それから半年一人で取り組んできたのですが、15年のブランクは大きく、

創作は思うように進まないまま、それでも簡単なものをちよくちよく折りながら来ました。

今年の4月、某雑誌で吉野一生さんの記事を読み、おりがみはうすの存在を知り、尋ねていったのが探偵団との出会いです。

実際に創作活動に関わっている方々とお会いしてお話をしたり、作品を見せていただいたりするのは非常に励みになります。件のカマキリも、技を教えていただいたわけでもないのに皆さんのご批評に晒されながら、どうにかこうにかそれなりになってきたようです。折紙探偵団は、お互いがお互いの作品を育てていける場なんですね。

もっと早くここを知っていればと悔しいこと甚だしいのですが、今や少なくなってしまった余暇から時間を見付けて創作も続けていきたいと思っています。

これからも、折り紙に限らず形の綺麗なものを創ったり見たりしていけたらいいなあと思っていますので、よろしくお願いします。

NOA九州支部作品展第2弾！

「きょうりゅう
おりがみ作品展」

日時 12月8日（水）から12月20日（月）午前10時～午後7時

場所 西鉄久留米駅東駅より、徒歩2分「ぎやらりー トウハン」

九州からは津田さん、本土からは折紙探偵団が上陸し、充実した内容です。ぜひ一度ご覧ください。

お問い合わせは、日本折紙協会九州支部 092-582-4656、堤政繼 0942-43-9352、「ぎやらりー トウハン」0942-33-2533まで。

ギャラリー
おりがみはうす

個展案内

さのやすひろ作品展

（日本折紙協会理事長）

オンリーワン Part2

1月6日（木）～2月6日（日）犬のおりがみ専科の作者が愛する犬達の年を迎えて、久々に開く個展。犬好き、おりがみ好きにかぎらず見逃せない、一犬の価値ある作品展。

折紙探偵団定例会の
お知らせ

1月か2月の探偵団例会にはイギリスのオリガミアン、ピドル夫妻の来日に合わせて歓迎会を開きたいと考えています。詳細はおりがみはうすまでお問い合わせください。

編集後記

前回に書いた登んだ紙を一度だけ直線で切って字をつくる名人は、目黒区の寺西義彦氏でした。そのことと記事を読んだ目黒俊幸氏がすぐに岡村という字をを切ってくれたことを報告します。（岡村）

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫

クリスマスの夜は大忘年会

折紙探偵団では忘年会兼クリスマス会を開きます。忘年会は今年で2回目。昨年は、限られた人にしかお知らせすることはできませんでしたが、それでも50名程の参加がありました。そこで、今年は会場も広いところにし、一人でも多くの人に参加していただけるように設定しました。皆さんご参加ください。

ご出席される方は12月22日ま

でにおりがみはうすにご連絡をお願いします。ビンゴ大会もありますよ。折り紙を使った隠し芸も合わせて募集しています。

日時 12月25日（土）午後6時から9時まで。

場所 都営地下鉄三田線春日駅下車A2出口、文京区民センター3階。

会費 4000円ですが、プレゼント交換を行いますので、500円程度の贈り物をご用意下さい。

（折紙作品は禁止！
なまもの 生きものはいいけど生物はだめよ。）

